| 資料No.11 | 総務文教常任委員会所管事務報告資料<br>令和７年12月８日【教育部教育総務課】 |
|---|---|

令和7年度

# 全国学力・学習状況調査 恵庭市の調査結果（報告）

恵庭市教育委員会

令和7年 10 月

【目次】

1．調査の概要 ……………………………………………………… 1

2．教科に関する調査
（1） 小学校国語 ……………………………………………… 3
（2） 小学校算数 ……………………………………………… 6
（3） 小学校理科 ……………………………………………… 9
（4） 中学校国語 ………………………………………………12
（5） 中学校数学 ………………………………………………15
（6） 中学校理科 ………………………………………………18

3．質問調査
（1） 児童生徒質問 ……………………………………………21
（2） 学校質問 …………………………………………………26

総評 ……………………………………………………………………31

# 1．調査の概要

## （1）調査の目的

◯義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◯学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◯そのような取組を通じて、教育に関する組織的な検証改善サイクルを確立する。

## （2）調査の対象

◯小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第６学年の児童

◯中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中等部の第３学年の生徒

## （3）調査の内容

◯教科に関する調査〔国語、算数･数学、理科〕

- 国語、算数･数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式
- 中学校理科は、生徒が活用するICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム(MEXCBT)によるオンライン方式

次の①と②を一体的に問う調査問題

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識･技能等

② 知識･技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価･改善する力等

◯質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕

① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的･物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

## （4）調査の方式

悉皆調査

## （5）調査実施日

◯教科に関する調査〔国語、算数･数学、理科〕

- 国語、算数･数学及び小学校理科
  令和７年4月 17 日(木)
- 中学校理科
  令和７年４月 14 日(月)から４月 17 日(木)までの間で、文部科学省が指定する日

◯質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕

令和７年４月の一定期間内にオンライン方式により実施

## （6）調査を受けた児童･生徒数

| 単位（人） | 小学校６年生 | | | 中学校３年生 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国語 | 算数 | 理科 | 国語 | 算数 | 理科 |
| 恵庭市 | 588 | 587 | 587 | 549 | 548 | 531 |
| 北海道（公立） | 34,203 | 34,203 | 34,220 | 33,467 | 33,470 | 33,370 |
| 全　国（公立） | 936,137 | 936,399 | 936,576 | 870,560 | 871,097 | 864,634 |

## （7）調査結果の解釈に関する留意事項

全国学力･学習状況調査の設問は、各教科の全ての領域や内容を網羅しているものではありません。したがって、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。

## （8）調査結果の掲載方法

「教科に関する調査」の平均正答率の数値については、出題される問題の難易度が年度ごとに変動するため、単純に比較することはできません。また、他市町村との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、これまで同様公表せず、「記号」や「文言」で表記します。内容、領域別の結果、経年変化については、全国比を用いたグラフで表記します。

なお、中学校理科で新たに導入された IRT スコアについては、客観的なデータとして学力の経年変化を把握することができることから、数値を公表することとし、今後、CBT 調査で行われる教科については、IRT スコア・IRT バンドを掲載し、学力の経年変化も見とれる報告書とします。

「質問調査」（生活習慣や学習環境等に関する項目）の結果については、回答率を表示します。

【全国･全道の平均正答率の比較】

| 全国･全道平均とのポイント差 | 記号 | 文言 |
|---|---|---|
| +5 ポイント以上 | △ | 上回る |
| +2 ポイント以上 +5 ポイント未満 | ◇ | やや上回る |
| +2 ポイント未満 -2 ポイント未満 | ≒ | ほぼ同程度 |
| -2 ポイント以下 -5 ポイント未満 | ◆ | やや下回る |
| -5 ポイント以下 | ▼ | 下回る |

【市の正答率】

| 正答率 | 記号 | 文言 |
|---|---|---|
| 80%以上 | ◎ | 相当できている |
| 60%～70% | ○ | ↕ |
| 50%～59% | ● | |
| 49%以下 | ・ | 課題がある |

（参考）IRT について

中学校理科は、従来の冊子を用いた筆記方式の調査から CBT(Computer-based Testing：コンピューター使用型調査)に変更され、IRT(Item Response Theory：項目反応理論)を活用した問題となっている。

※IRT とは、国際的な学力調査(PISA、TIMSS など)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFL など)で採用されているテスト理論であり、異なる問題から採用される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できる。

問題の構成は、生徒１人当たり、公開問題 10 問と非公開問題 16 問の計 26 問が出題されている。公開問題には、全日程に共通する問題（６問）と実施日別の問題（４問）がある。非公開問題は幅広い内容・難易度から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いている。

※共通問題６問＋実施日別問題４問＋非公開問題 16 問＝26 問

結果については、従来のような全ての問題の正答数・正答率ではなく、IRT に基づいて算出された IRT スコア・IRT バンドで公表されている。

※IRT スコアは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。

※IRT バンドは、IRT スコアを 1～5 の５段階に区切ったものであり、３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなる。

※IRT スコア・IRT バンドは、難易度の高い問題に正対していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

| IRT バンド | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| IRT スコア | ～350 | 350～450 | 450～550 | 550～650 | 650～ |

## 2．教科に関する調査

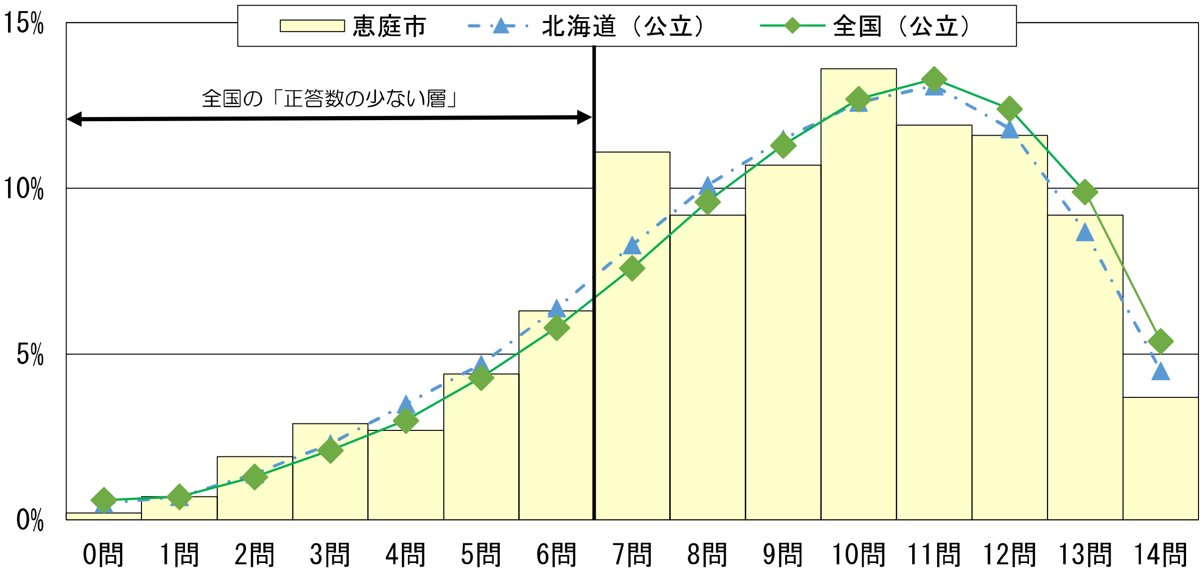
### （1）小学校国語

【北海道平均正答率、全国平均正答率と恵庭市小学校平均正答率との比較】

| 教科 | 北海道(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>北海道との比較 | 全国(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全国との比較 |
|---|---|---|---|---|
| 国語 | 65.4% | ≒ | 66.8% | ≒ |
| | R6 | ≒ | R6 | ≒ |
| | R5 | ≒ | R5 | ≒ |

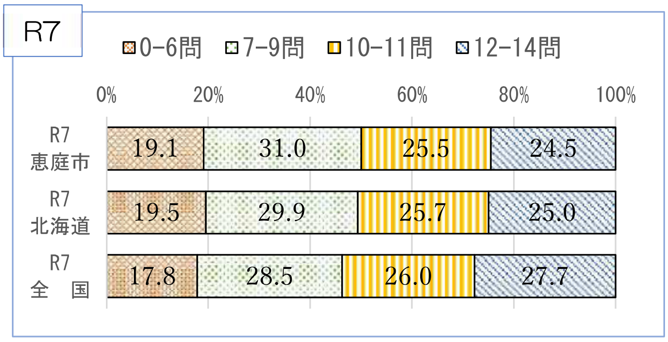
全国、全道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

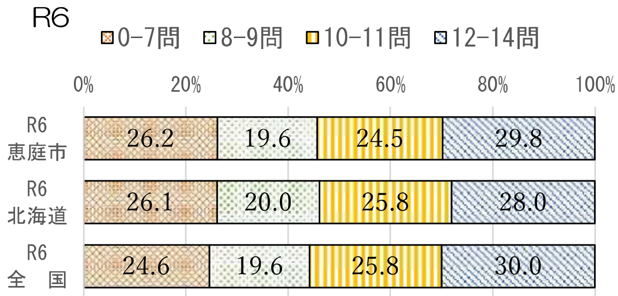
【正答数の分布状況】




※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

【正答数の層分布（全国四分位)】



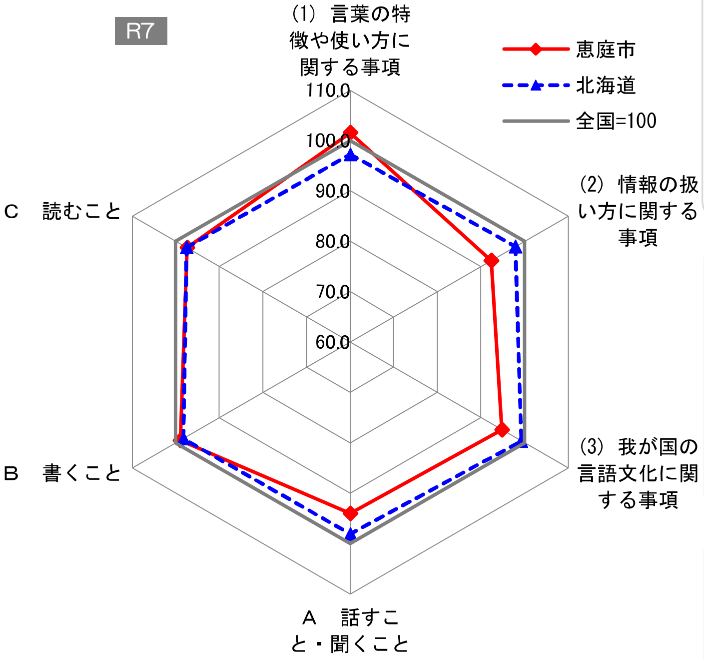

■ 平均正答率は、全道、全国と比較して、「≒ほぼ同程度」という結果でした。
■ 正答数の少ない層の割合は、全国より 1.3 ポイント多く、正答数の多い層の割合は、全国より 3.2 ポイント少ない状況となっています。

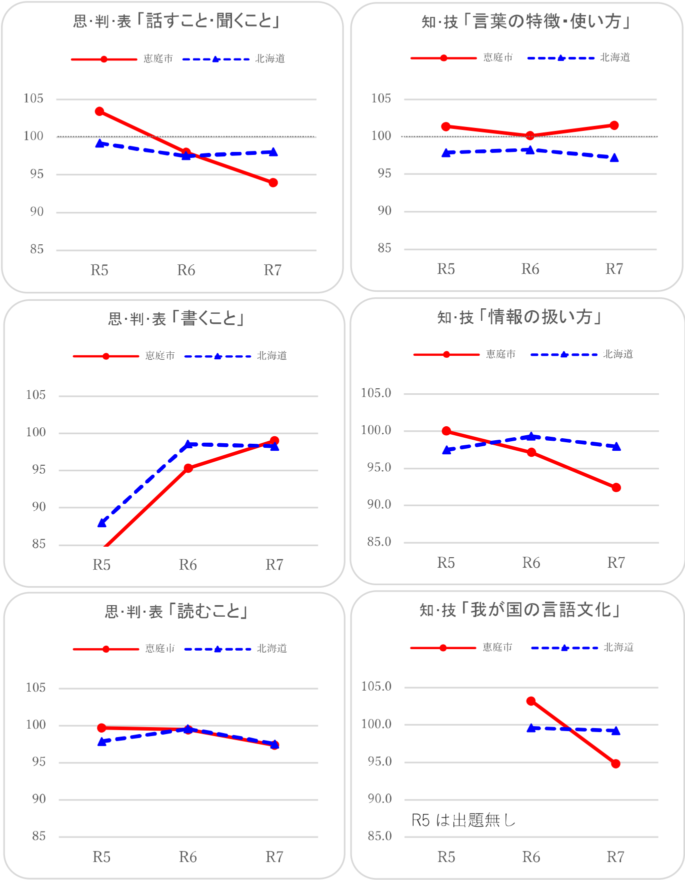
## 【学習指導要領の内容別、問題形式別の平均正答率の状況】　小学校国語

| 分類 | | 区分 | 全14問 | 恵庭市平均正答率 | 北海道平均正答率 | 全道と市内の比較 | R6全道比較 | 全国平均正答率 | 全国と市内の比較 | R6全国比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 2 | ○ | 74.8% | ◇ | ≒ | 76.9% | ≑ | ≒ |
| | | (2)情報の扱い方に関する事項 | 1 | ● | 61.8% | ◆ | ≒ | 63.1% | ◆ | ◆ |
| | | (3)我が国の言語文化に関する事項 | 1 | ○ | 80.6% | ◆ | ◇ | 81.2% | ◆ | ◇ |
| | 思考力,判断力,表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 3 | ○ | 65.0% | ◆ | ≒ | 66.3% | ◆ | ≒ |
| | | B 書くこと | 3 | ○ | 68.3% | ≑ | ◆ | 69.5% | ≑ | ◆ |
| | | C 読むこと | 4 | ● | 56.1% | ≑ | ≒ | 57.5% | ≑ | ≒ |
| 問題形式 | | 選択式 | 9 | ○ | 63.3% | ≑ | ≒ | 64.7% | ◆ | ≒ |
| | | 短答式 | 3 | ○ | 76.8% | ◇ | ≒ | 78.5% | ≑ | ≒ |
| | | 記述 | 2 | ● | 58.1% | ≑ | ≒ | 58.8% | ≑ | ≒ |

恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国、道との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

全国比「全国平均正答率を 100 としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ




■「言葉の特徴や使い方」の正答率は、全道を「やや上回る」、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「情報の扱い方」の正答率は、全道、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「我が国の言語文化」の正答率は、全道、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「話すこと·聞くこと」の正答率は、全道、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「書くこと」の正答率は、全道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「読むこと」の正答率は、全道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。

## 【問題別集計結果】　小学校国語

### 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の内容 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 四 ア | 【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す(このみ) | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 短答 | ◎ | 81.6% | ◇ | 81.6% | ◇ |
| | | | | 無解答率→ | 3.4% | 7.2% | -3.8 | 7.2% | -3.8 |

### 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の内容 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 一 | 【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する | 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる | 話すこと･聞くこと | 選択 | • | 51.2% | ◆ | 53.3% | ▼ |
| | | | | 無解答率→ | 0.3% | 0.4% | -0.1 | 0.5% | -0.2 |
| 1 二 | 【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する | 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる | 情報の扱い方に関する事項 | 記述 | ● | 61.8% | ◆ | 63.1% | ◆ |
| | | | | 無解答率→ | 0.2% | 0.3% | -0.1 | 0.5% | -0.3 |
| 1 三 (1) | 【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発した目的として適切なものを選択する | 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる | 話すこと･聞くこと | 選択 | ○ | 71.2% | ◆ | 71.8% | ◆ |
| | | | | 無解答率→ | 0.3% | 0.4% | -0.1 | 0.6% | -0.3 |
| 3 一 | 【資料１】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する | 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる | 我が国の言語文化に関する事項 | 選択 | ○ | 80.6% | ◆ | 81.2% | ◆ |
| | | | | 無解答率→ | 0.5% | 1.0% | -0.5 | 1.3% | -0.8 |
| 3 二 (2) | 【資料３】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する | 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる | 読むこと | 選択 | • | 48.1% | ◆ | 51.3% | ▼ |
| | | | | 無解答率→ | 0.9% | 2.0% | -1.1 | 2.4% | -1.5 |

### 上記問題以外で、無解答率が10%以上になった問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の内容 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 三 (2) | 【資料 1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料 2】、【資料 3】、【資料 4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる | 読むこと | 記述 | ● | 55.8% | ≒ | 56.3% | ≒ |
| | | | | 無解答率→ | 10.9% | 16.1% | -5.2 | 16.2% | -5.3 |

＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。小学校国語では、14 問全てで全国平均を下回るという取組状況でした。

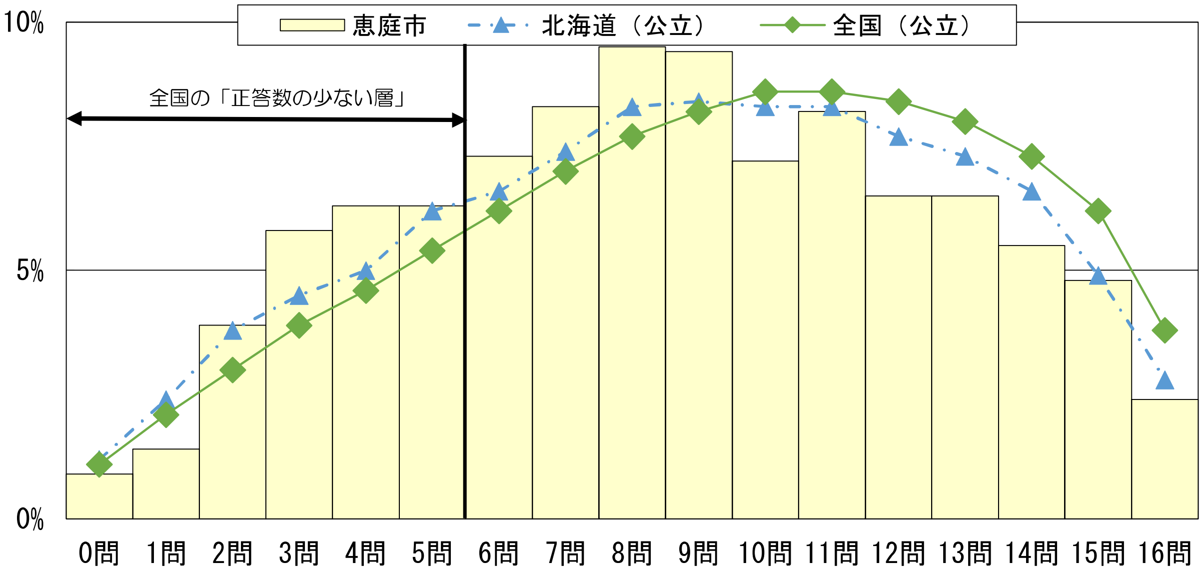
## （2）小学校算数

【北海道平均正答率、全国平均正答率と恵庭市小学校平均正答率との比較】

| 教科 | 北海道(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全道との比較 | 全国(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全国との比較 |
|---|---|---|---|---|
| 算数 | 55.0% | ≒ | 58.0% | ◆ |
| | R6 | ≒ | R6 | ◆ |
| | R5 | ≒ | R5 | ◆ |

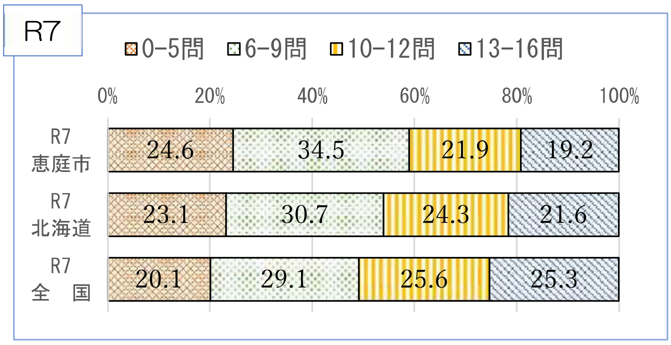
全国、全道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

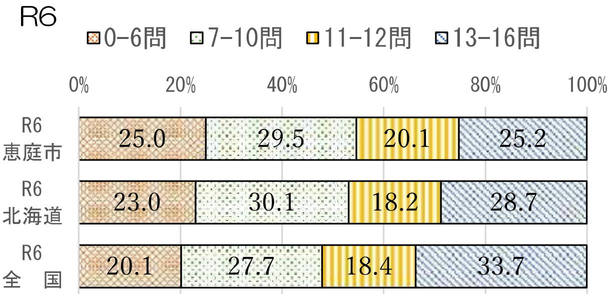
【正答数の分布状況】




※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

【正答数ごとの層分布（全国四分位）】




■ 平均正答率は、全道と比較して「≒ほぼ同程度」、全国と比較して「◆やや下回る」という結果でした。

■ 正答数の少ない層の割合は、全国より 4.5 ポイント多く、正答数の多い層の割合は、全国より 6.1 ポイント少ない状況となっています。

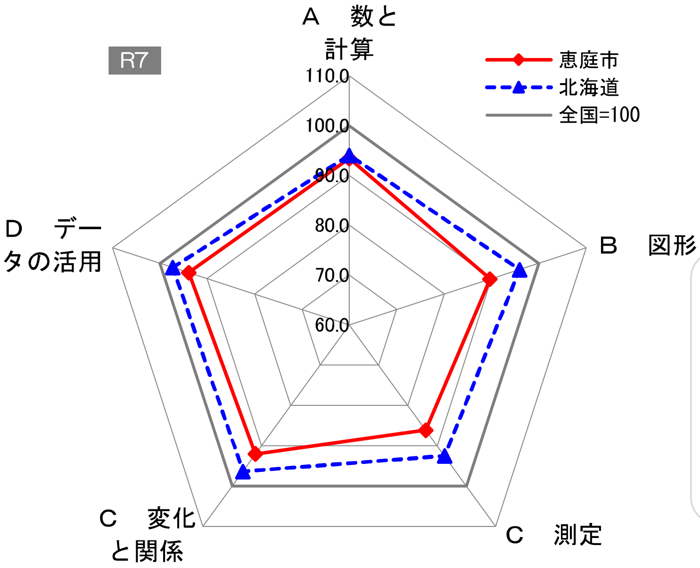
## 【学習指導要領の領域別、問題形式別の平均正答率の状況】　小学校算数

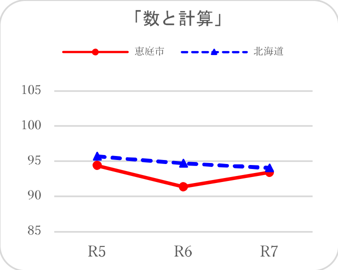
| 分類 | 区分 | 全16問 | 恵庭市<br>平均正答率 | 北海道<br>平均正答率 | 全道と市<br>内の比較 | R6<br>全道<br>比較 | 全国<br>平均正答率 | 全国と市<br>内の比較 | R6<br>全国<br>比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領の領域 | A 数と計算 | 8 | ● | 58.6% | ≒ | ◆ | 62.3% | ◆ | ▼ |
| | B 図形 | 4 | ● | 53.9% | ◆ | ≒ | 56.2% | ▼ | ◆ |
| | C 測定 | 2 | ・ | 50.7% | ◆ | | 54.8% | ▼ | |
| | C 変化と関係 | 3 | ● | 55.4% | ◆ | ≒ | 57.5% | ◆ | ▼ |
| | D データの活用 | 5 | ● | 60.9% | ◆ | ≒ | 62.6% | ◆ | ◆ |
| 問題形式 | 選択式 | 6 | ○ | 66.4% | ◆ | ≒ | 67.2% | ◆ | ◆ |
| | 短答式 | 6 | ● | 59.7% | ≒ | ≒ | 64.0% | ◆ | ◆ |
| | 記述式 | 4 | ・ | 31.4% | ◆ | ≒ | 34.9% | ▼ | ◆ |

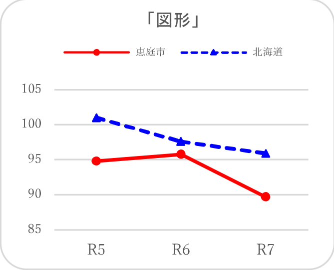
※「学習指導要領の領域」については、１つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

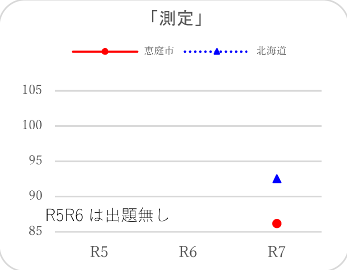
恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国, 道との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

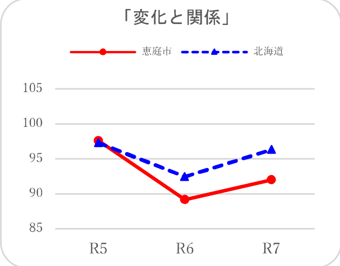
全国比「全国平均正答率を 100 としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ

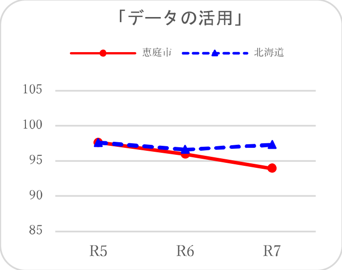



■「数と計算」の正答率は、全道と「ほぼ同程度」であり、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「図形」の正答率は、全道を「やや下回る」、全国を「下回る」結果となりました。
■「測定」の正答率は、全道を「やや下回る」、全国を「下回る」結果となりました。
■「変化と関係」の正答率は、全道、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「データの活用」の正答率は、全道、全国を「やや下回る」結果となりました。
■問題形式では、記述式の正答率が全国を「下回る」結果となりました。

## 【問題別集計結果】　小学校算数

| 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題　なし |
|---|

**平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題**

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の内容 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 (1) | 2022 年の全国のブロッコリ-の出荷量が 2002 年の全国のブロッコリ-の出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ | 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる | 数と計算<br>データの活用 | 選択 | ○ | 77.1% | ◆ | 78.7% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 0.0% | 0.3% | -0.3 | 0.4% | -0.4 |
| 1 (2) | 都道府県Ａのブロッコリ-の出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く | 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる | データの活用 | 記述 | ・ | 28.8% | ≒ | 31.0% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 0.3% | 0.6% | -0.5 | 0.9% | -0.6 |
| 1 (4) | 示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン 1 個とブロッコリー4 個の重さを求める式と答えを書く | 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる | 数と計算 | 短答 | ○ | 71.2% | ≒ | 74.5% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 1.7% | 2.9% | -1.2 | 2.6% | -0.9 |
| 2 (1) | 示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ | 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる | 図形 | 短答 | ● | 54.4% | ≒ | 58.3% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 0.3% | 1.3% | -1.0 | 1.2% | -0.9 |
| 2 (2) | 方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ | 台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる | 図形 | 選択 | ・ | 50.5% | ▼ | 50.2% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 0.7% | 0.7% | 0 | 0.7% | 0 |
| 2 (4) | 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く | 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる | 図形 | 記述 | ・ | 33.8% | ◆ | 37.0% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 1.0% | 2.6% | -1.6 | 2.7% | -1.7 |
| 3 (1) | 0.4+0.05 について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く | 0.4+0.05 について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く | 数と計算 | 短答 | ○ | 71.5% | ≒ | 74.1% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 2.0% | 3.1% | -1.1 | 2.8% | -0.8 |
| 3 (2) | 3/4+2/3 について、共通する単位分数と、3/4 と 2/3 が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く | 分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる | 数と計算 | 記述 | ・ | 18.6% | ≒ | 23.0% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 15.0% | 18.1% | -3.1 | 15.7% | -0.7 |
| 3 (3) | 数直線上に示された数を分数で書く | 数直線上で、１の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる | 数と計算 | 短答 | ・ | 31.3% | ≒ | 35.0% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 5.8% | 8.3% | -2.5 | 7.8% | -2.0 |
| 4 (2) | 使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く | 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる | 数と計算<br>測定<br>変化と関係<br>データの活用 | 記述 | ・ | 44.3% | ◆ | 48.7% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 1.4% | 3.4% | -2.0 | 3.4% | -2.0 |
| 4 (3) | はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む | はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる | 測定 | 短答 | ● | 57.0% | ◆ | 60.9% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 2.7% | 4.5% | -1.8 | 4.2% | -1.5 |
| 4 (4) | 10%増量したつめかえ用のハンドソープの 内容量が、増量前の何倍かを選ぶ | 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる | 変化と関係 | 選択 | ・ | 40.0% | ◆ | 40.9% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 2.2% | 4.4% | -2.2 | 4.1% | -1.9 |

| 上記問題以外で、無解答率が 10%以上になった問題　なし |
|---|

＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。小学校算数では、16 問中 14 問で全国平均より低く、２問が同数値という取組状況でした。

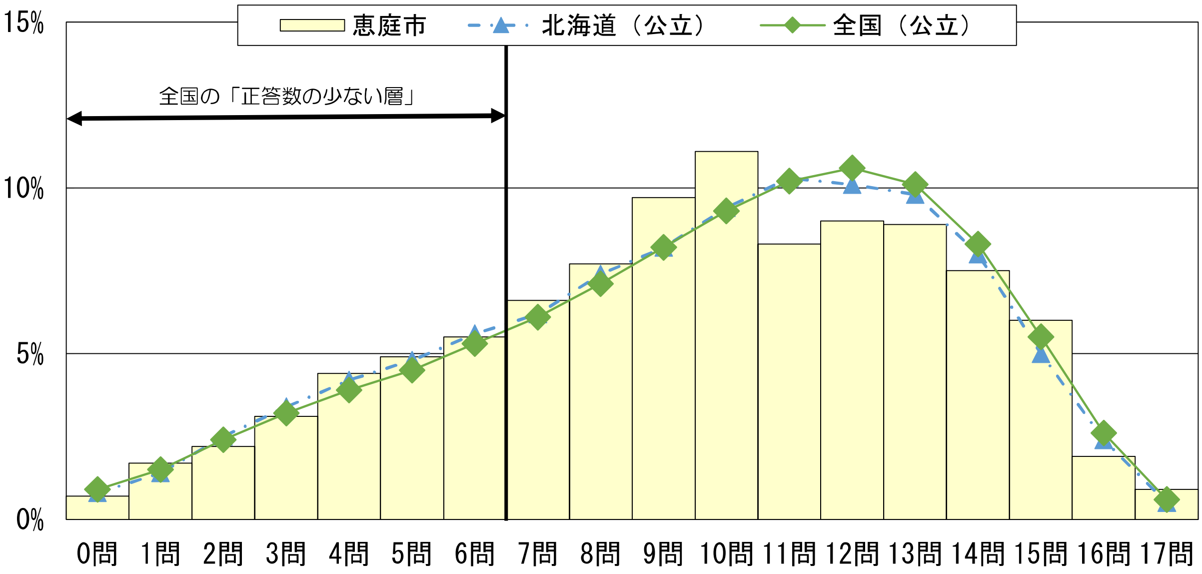
## （3）小学校理科

【北海道平均正答率、全国平均正答率と恵庭市小学校平均正答率との比較】

| 教科 | 北海道(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全道との比較 | 全国(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全国との比較 |
|---|---|---|---|---|
| 理科 | 56.3% | ≒ | 57.1% | ≒ |
| | R4 | ≒ | R4 | ≒ |

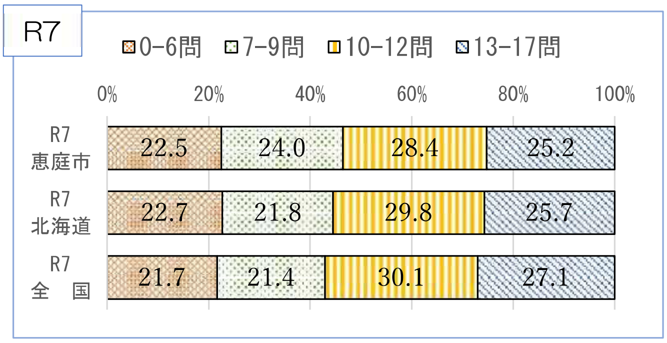
全国、全道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

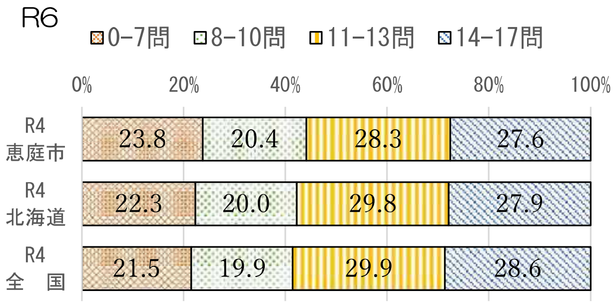
【正答数の分布状況】




※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

【正答数ごとの層分布（全国四分位）】




■ 平均正答率は、全道、全国と比較して「≒ほぼ同程度」という結果でした。
■ 正答数の少ない層の割合は、全国より 0.8 ポイント多く、正答数の多い層の割合は、全国より 1.9 ポイント少ない状況となっています。

## 【学習指導要領の区分・領域別、問題形式別の平均正答率の状況】　小学校理科

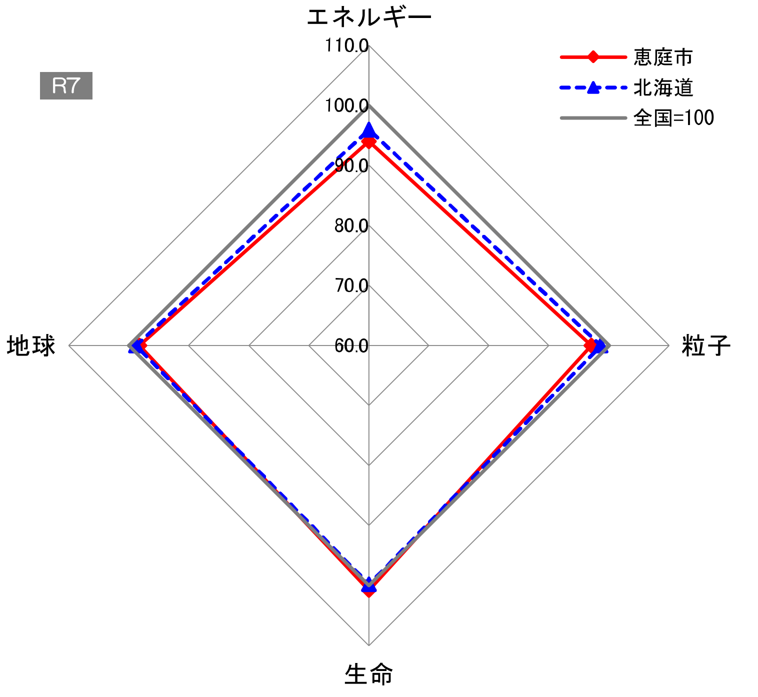
| 分類 | 区分 | | 全17問 | 恵庭市平均正答率 | 北海道平均正答率 | 全道と市内の比較 | R4全国比較 | 全国平均正答率 | 全国と市内の比較 | R4全国比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領の区分・領域 | A | エネルギー | 4 | • | 44.8% | ≒ | ≒ | 46.7% | ◆ | ≒ |
| | A | 粒子 | 6 | • | 50.7% | ≒ | ≒ | 51.4% | ≒ | ≒ |
| | B | 生命 | 4 | ● | 51.9% | ≒ | ≒ | 52.0% | ≒ | ≒ |
| | B | 地球 | 6 | ○ | 65.9% | ≒ | ≒ | 66.7% | ≒ | ≒ |
| 問題形式 | 選択式 | | 11 | ● | 53.8% | ≒ | ≒ | 54.7% | ◆ | ≒ |
| | 短答式 | | 4 | ○ | 69.2% | ≒ | ≒ | 69.7% | ≒ | ≒ |
| | 記述式 | | 2 | • | 44.3% | △ | ≒ | 45.2% | ◇ | ◆ |

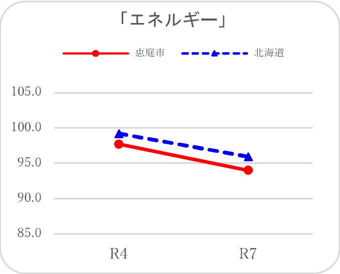
※「学習指導要領の区分・領域」については、１つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

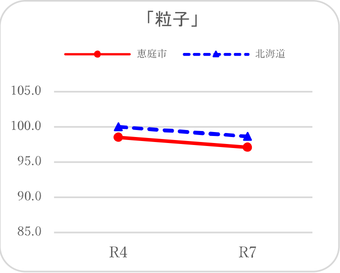
恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国、道との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

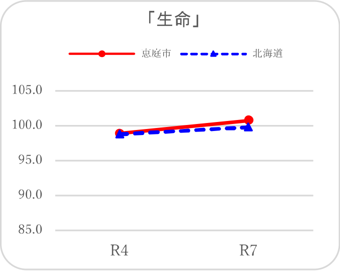
全国比「全国平均正答率を 100 としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ

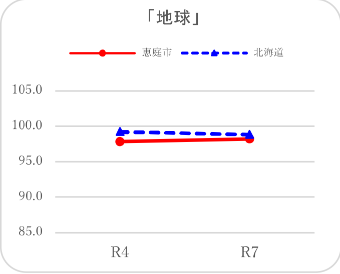
理科の前回実施は令和４年度




■「エネルギー」は、全道の正答率と「ほぼ同程度」、全国の正答率を「やや下回る」結果となりました。
■「粒子」は、全道、全国の正答率と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「生命」は、全道、全国の正答率と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「地球」は、全道、全国の正答率と「ほぼ同程度」の結果となりました。

## 【問題別集計結果】　小学校理科

| 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
| 3 (4) | レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く | レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる | 「生命」を柱とする領域 | 記述 | ・ | 29.1% | △ | 29.9% | △ |
| | | | 無解答率→ | | 7.2% | 11.6% | -4.4 | 11.4% | -4.2 |
| 4 (1) | 水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く | 水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる | 「粒子」を柱とする領域 | 短答 | ● | 52.7% | ◇ | 50.6% | ◇ |
| | | | 無解答率→ | | 4.4% | 6.2% | -1.8 | 6.1% | -1.7 |

| 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
| 1 (3) | 【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ | 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる | 「地球」を柱とする領域 | 選択 | ○ | 76.5% | ◆ | 77.8% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 0.5% | 0.8% | -0.3 | 0.9% | -0.4 |
| 2 (4) | 乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ | 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる | 「エネルギー」を柱とする領域 | 選択 | ・ | 52.0% | ▼ | 55.1% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 0.5% | 0.6% | -0.1 | 0.8% | -0.3 |
| 4 (3) ク | 海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ | 「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる | 「粒子」を柱とする領域 | 選択 | ○ | 63.3% | ◆ | 65.6% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 0.9% | 2.3% | -1.4 | 2.5% | -1.6 |

上記問題以外で、無解答率が 10%以上になった問題　なし

＊「無解答率」とは解答欄に何も書かなかった場合の割合。小学校理科では、17 問全てで全国平均を下回る取組状況でした。

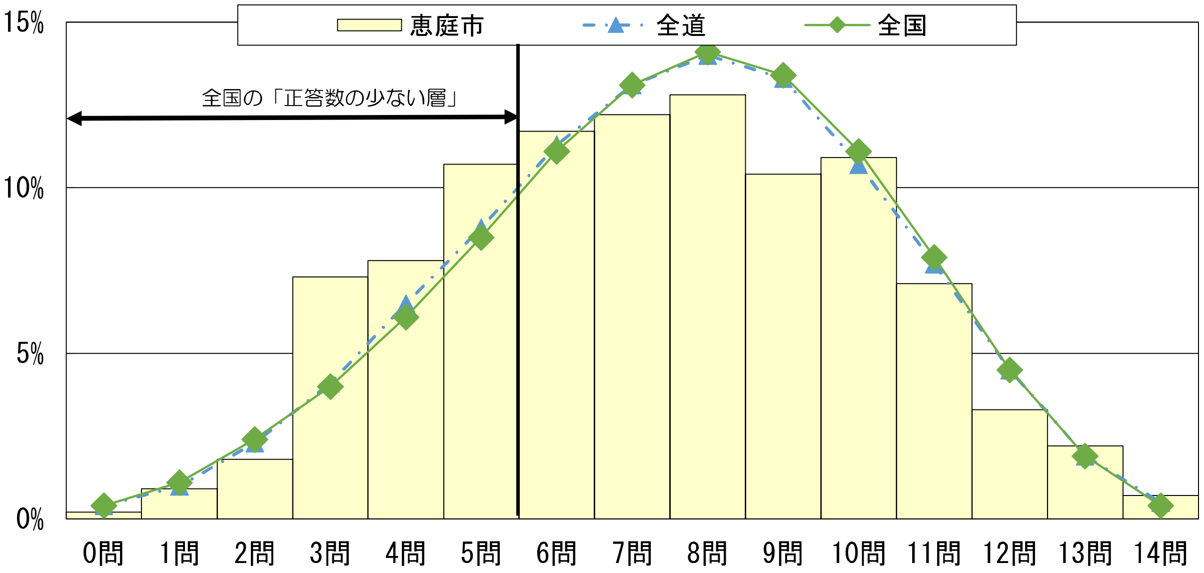
## （4）中学校国語

【北海道平均正答率、全国平均正答率と恵庭市中学校平均正答率との比較】

| 教科 | 北海道(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全道との比較 | 全国(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全国との比較 |
|---|---|---|---|---|
| 国語 | 54.0% | ◆ | 54.3% | ◆ |
| | R6 | ≒ | R6 | ≒ |
| | R5 | ◇ | R5 | ≒ |

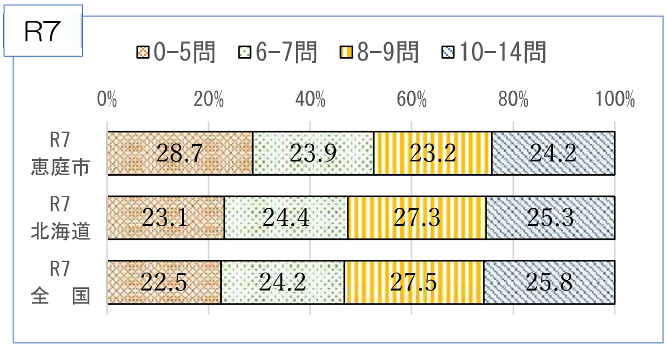
全国、全道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

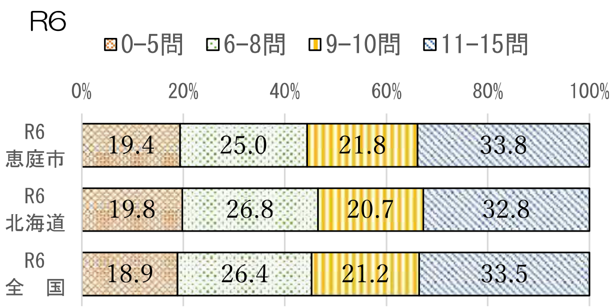
【正答数の分布状況】




※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

【正答数ごとの層分布（全国四分位）】



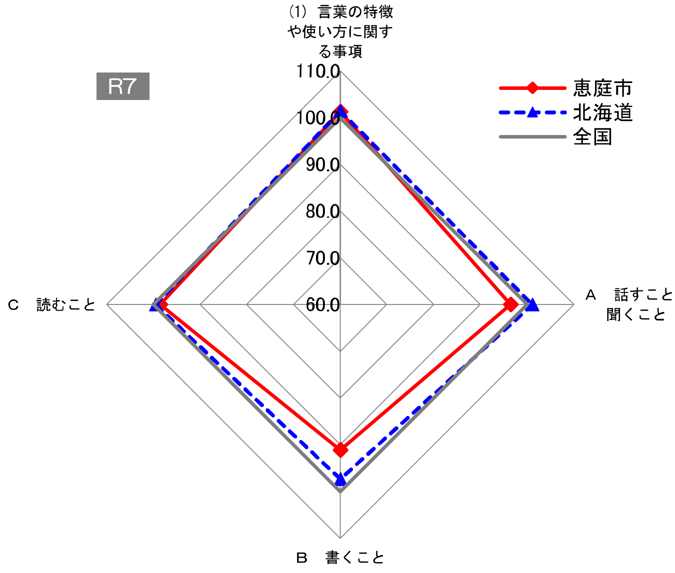

■ 平均正答率は、全道、全国と比較して「◆やや下回る」という結果となりました。
■ 正答数の少ない層の割合は、全国より 6.2 ポイント多く、正答数の多い層の割合は、全国より 1.6 ポイント少ない状況となっています。

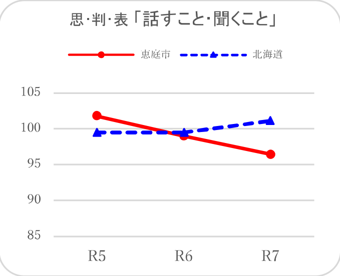
## 【学習指導要領の内容別、問題形式別の平均正答率の状況】　中学校国語

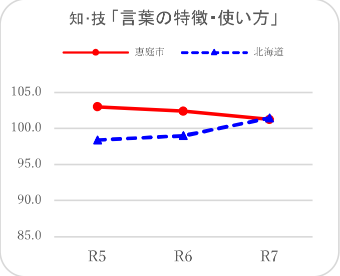
| 分類 | | 区分 | 全14問 | 恵庭市平均正答率 | 北海道平均正答率 | 全道と市内の比較 | R6全道比較 | 全国平均正答率 | 全国と市内の比較 | R6全国比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 2 | ・ | 48.8% | ≒ | ◇ | 48.1% | ≒ | ≒ |
| | | (2)情報の扱い方に関する事項 | 0 | | | | ≒ | | | ≒ |
| | | (3)我が国の言語文化に関する事項 | 0 | | | | ≒ | | | ≒ |
| | 思考力,判断力,表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 4 | ● | 53.8% | ◆ | ≒ | 53.2% | ≒ | ≒ |
| | | B 書くこと | 5 | ・ | 51.4% | ◆ | ≒ | 52.8% | ◆ | ≒ |
| | | C 読むこと | 3 | ○ | 62.0% | ≒ | ≒ | 62.3% | ≒ | ≒ |
| 問題形式 | | 選択式 | 8 | ○ | 64.0% | ≒ | ≒ | 63.9% | ≒ | ≒ |
| | | 短答式 | 2 | ○ | 72.9% | ◆ | ≒ | 73.6% | ◆ | ≒ |
| | | 記述式 | 4 | ・ | 24.3% | ≒ | ≒ | 25.3% | ◆ | ≒ |

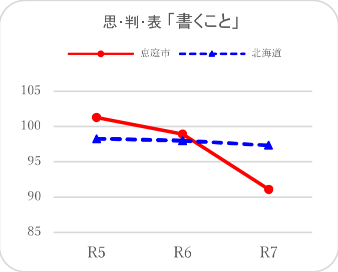
恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国、道との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

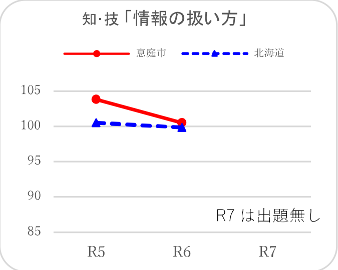
全国比「全国平均正答率を100としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ

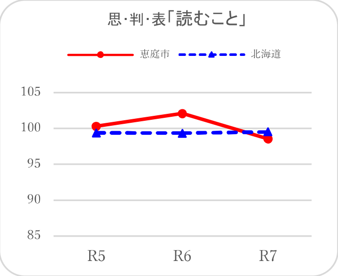


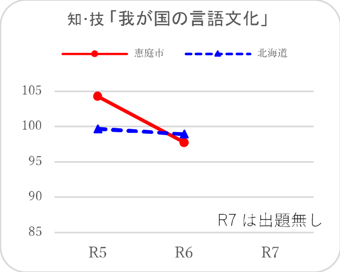




■「言葉の特徴や使い方」は、全道、全国の正答率と「ほぼ同程度」の結果となりました。

■「話すこと·聞くこと」は、全道の正答率を「やや下回る」、全国の正答率と「ほぼ同程度」の結果となりました。

■「書くこと」は、全道、全国の正答率を「やや下回る」結果となりました。

■「読むこと」は、全道、全国と正答率と「ほぼ同程度」の結果となりました。

## 【問題別集計結果】　中学校国語

### 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題　なし

### 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の内容 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 四 | ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く | 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる | 書くこと | 記述 | ・ | 29.9 | ◆ | 31.0 | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 1.8% | 1.7% | +0.1 | 1.6% | +0.2 |
| 2 二 | 聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する | 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる | 話すこと･聞くこと | 選択 | ○ | 77.4 | ◆ | 77.9 | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 0.2% | 0.3% | -0.1 | 0.3% | -0.1 |
| 2 三 | 「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する | 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる | 話すこと･聞くこと | 選択 | ○ | 73.7 | ◆ | 73.4 | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 0.4% | 0.5% | -0.1 | 0.6% | -0.2 |
| 4 一 | 手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する | 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる | 書くこと | 短答 | ・ | 55.4 | ▼ | 57.3 | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 43.2% | 35.2% | +8.0 | 33.5% | +9.7 |
| 4 二 | 手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く | 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる | 書くこと | 記述 | ・ | 28.4 | ≒ | 30.1 | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 18.2% | 20.9% | -2.7 | 19.1% | -0.9 |

### 上記問題以外で、無回答率が 10%以上になった問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の内容 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 四 | 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く | 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる | 読むこと | 記述 | ・ | 16.3% | ≒ | 17.1% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 29.0% | 30.8% | -1.8 | 28.1% | +0.9 |

＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。中学校国語では、14 問中７問で全国平均を下回りました。記述式の問題における無解答が多かったです。

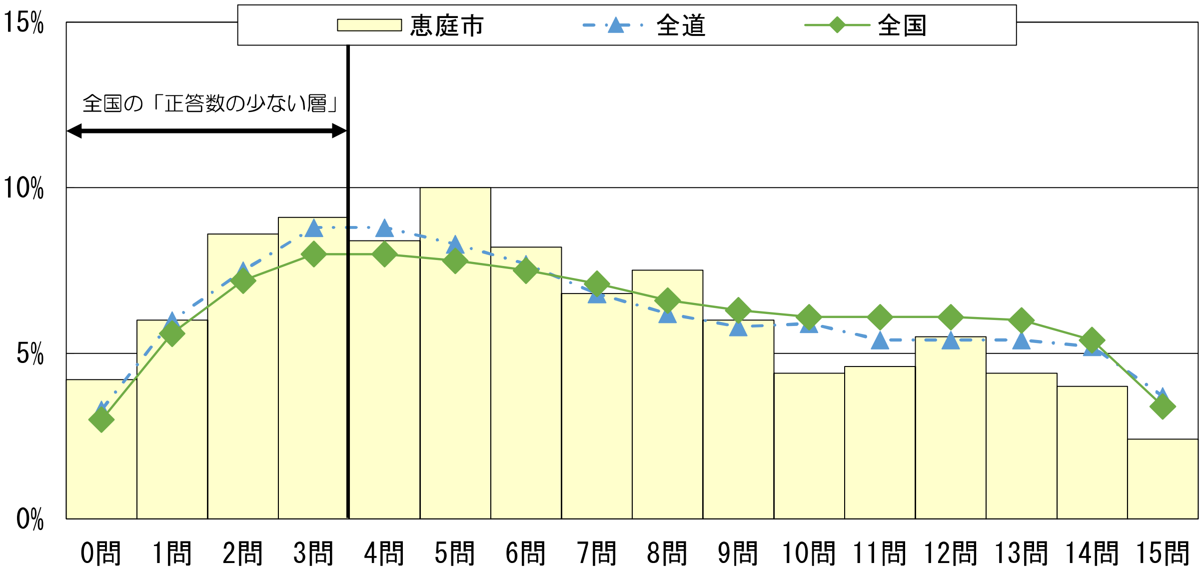
## （5）中学校数学

【北海道平均正答率、全国平均正答率と恵庭市小学校平均正答率との比較】

| 教科 | 北海道(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全道との比較 | 全国(公立)<br>平均正答率 | 恵庭市<br>全国との比較 |
|---|---|---|---|---|
| 理科 | 46.7% | ◆ | 48.3% | ◆ |
| | R6 | ≒ | R6 | ≒ |
| | R5 | ≒ | R5 | ◆ |

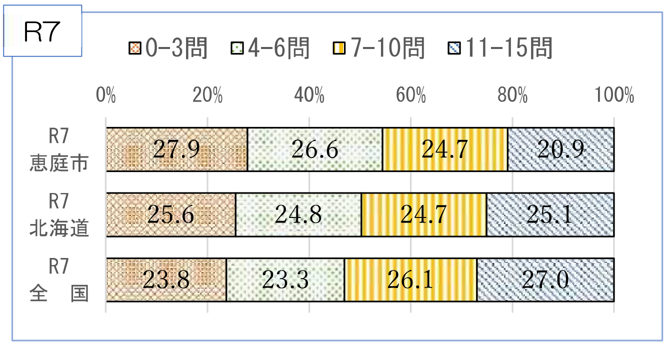
全国、全道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

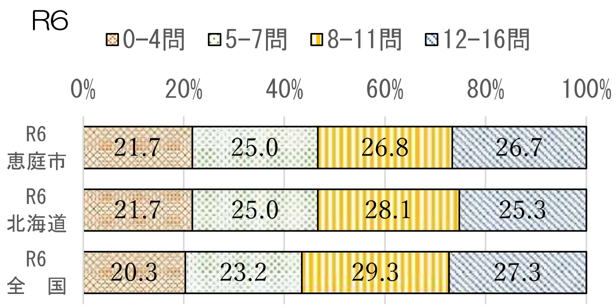
【正答数の分布状況】




※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

■ 正答数ごとの層分布（全国四分位）




■ 平均正答率は、全道、全国と比較して「◆やや下回る」という結果になりました。

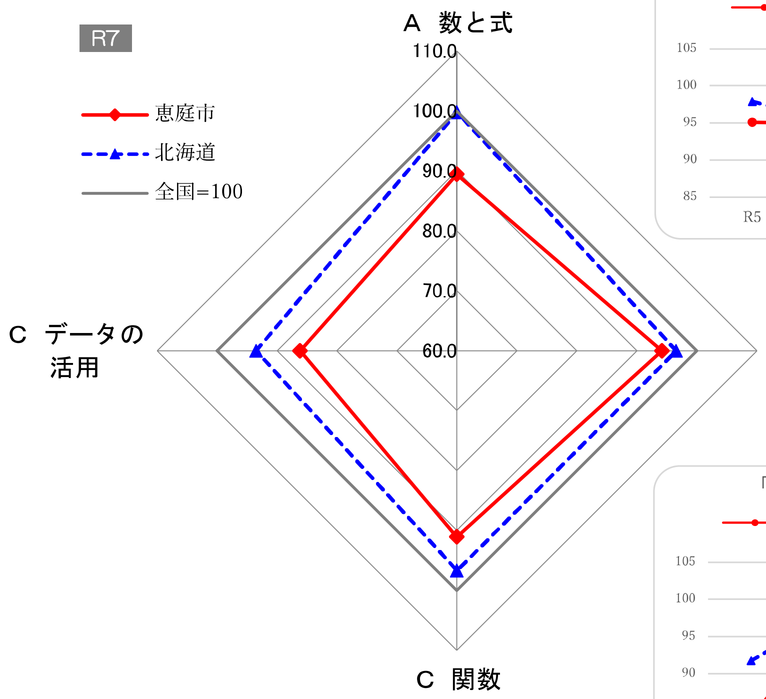
■ 正答数の少ない層の割合は、全国より 4.1 ポイント多く、正答数の多い層の割合は、全国より 6.1 ポイント少ない状況となっています。

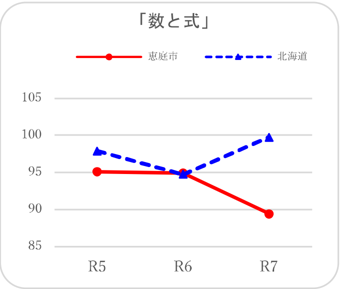
## 【学習指導要領の領域別、問題形式別の平均正答率の状況】　中学校数学

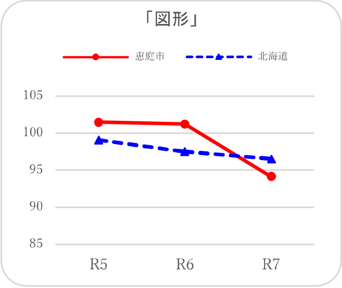
| 分類 | 区分 | 全15問 | 恵庭市平均正答率 | 北海道平均正答率 | 全道と市内の比較 | R6全道比較 | 全国平均正答率 | 全国と市内の比較 | R6全国比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領の領域 | 数と式 | 5 | ・ | 43.4% | ◆ | ≒ | 43.5% | ◆ | ◆ |
| | 図形 | 4 | ・ | 44.9% | ≒ | ≒ | 46.5% | ◆ | ≒ |
| | 関数 | 3 | ・ | 46.6% | ◆ | ≒ | 48.2% | ◆ | ≒ |
| | データの活用 | 3 | ● | 54.8% | ◆ | ≒ | 58.6% | ▼ | ≒ |
| 問題形式 | 選択式 | 3 | ● | 56.1% | ≒ | ≒ | 54.0% | ≒ | ≒ |
| | 短答式 | 7 | ・ | 49.9% | ◆ | ≒ | 52.0% | ▼ | ≒ |
| | 記述式 | 5 | ・ | 36.7% | ◆ | ≒ | 39.6% | ▼ | ◆ |

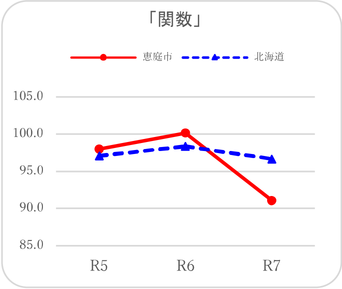
恵庭市の正答率　◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国,道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

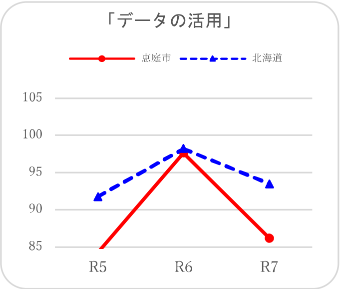
全国比「全国平均正答率を 100 としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ




■「数と式」の正答率は、全道、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「図形」の正答率は、全道と「ほぼ同程度」、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「関数」の正答率は、全道、全国の正答率を「やや下回る」結果となりました。
■「データの活用」の正答率は、全道を「やや下回る」、全国を「下回る」結果となりました。
■ 記述式問題、短答式の問題において、全国の正答率を「下回る」結果となりました。

## 【問題別集計結果】　中学校数学

### 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | １から９までの数の中から素数を全て選ぶ | 素数の意味を理解しているかどうかをみる | 数と式 | 選択 | ・ | 40.5% | ◆ | 31.8% | △ |
| | | | 無解答率→ | | 0.0% | 0.5% | -0.5 | 0.7% | -0.7 |

### 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 全国平均正答率 | 全国との比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 果汁 40%の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す | 数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる | 数と式 | 短答 | ・ | 48.4% | ≒ | 51.9% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 8.4% | 8.8% | -0.4 | 7.3% | +1.1 |
| 4 | 一次関数 y=6x+5 について、x の増加量が２のときの y の増加量を求める | 一次関数 y=ax+b について、変化の割合を基に、x の増加量に対 する y の増加量を求めることができるかどうかをみる | 関数 | 短答 | ・ | 33.1% | ◆ | 34.7% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 8.2% | 9.7% | -1.5 | 8.0% | +0.2 |
| 5 | ある学級の生徒 40 人のハンドバール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m 以上 25m 未満の階級の相対度数を求める | 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる | データの活用 | 短答 | ・ | 36.2% | ▼ | 42.5% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 9.7% | 11.0% | -1.3 | 9.4% | +0.3 |
| 6（1） | 連続する二つの３の倍数の和が９の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める | 事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる | 数と式 | 短答 | ● | 62.9% | ▼ | 62.8% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 3.5% | 5.4% | -1.9 | 4.6% | -1.1 |
| 6（2） | 3n と 3n+3 の和を 2(3n+1)+1 と表した式から、連続する二つの３の倍数の和がどんな数であるかを説明する | 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる | 数と式 | 記述 | ・ | 25.1% | ◆ | 25.7% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 25.9% | 27.8% | -1.9 | 24.9% | +1.0 |
| 6（3） | 連続する三つの３の倍数の和が、９の倍数になることの説明を完成する | 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる | 数と式 | 記述 | ・ | 40.0% | ◆ | 45.2% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 24.3% | 24.0% | +0.3 | 20.2% | +4.1 |
| 7（1） | A の手元のカードが３枚とも「グー」、B の手元のカードが３枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲーム １ 回目を行うとき、１回目に A が勝つ確率を書く | 必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる | データの活用 | 短答 | ○ | 76.1% | ◆ | 77.4% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 2.6% | 3.9% | -1.3 | 3.2% | -0.6 |
| 7（2） | A の手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の４枚、B の手元のカードが「グー」、「チョキ」の２枚のとき、A と B の勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する | 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる | データの活用 | 記述 | ● | 52.1% | ≒ | 55.9% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 2.0% | 3.1% | -1.1 | 2.2% | -0.2 |
| 8（1） | A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取れば C 駅と D 駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ | 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる | 関数 | 選択 | ○ | 70.5% | ≒ | 71.9% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 1.8% | 2.4% | -0.6 | 2.3% | -0.5 |
| 8（2） | A 駅から 60.0km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する | 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる | 関数 | 記述 | ・ | 36.1% | ◆ | 38.0% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 36.9% | 37.8% | -0.9 | 35.0% | +1.9 |
| 9（2） | 平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に BE=DF となる点 E、F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する | 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる | 図形 | 短答 | ・ | 35.1% | ≒ | 36.3% | ◆ |
| | | | 無解答率→ | | 8.2% | 8.8% | -0.6 | 7.2% | +1.0 |
| 9（3） | 平行四辺形 ABCD の辺 BC、DA を延長した直線上に BE=DF となる点 E、F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE の交点を H としたとき、四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明する | ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる | 図形 | 記述 | ・ | 30.1% | ◆ | 33.2% | ▼ |
| | | | 無解答率→ | | 36.7 | 34.8 | +1.9 | 31.5 | +5.2 |

### 上記問題以外で、無解答率が 10%以上になった問題　　なし

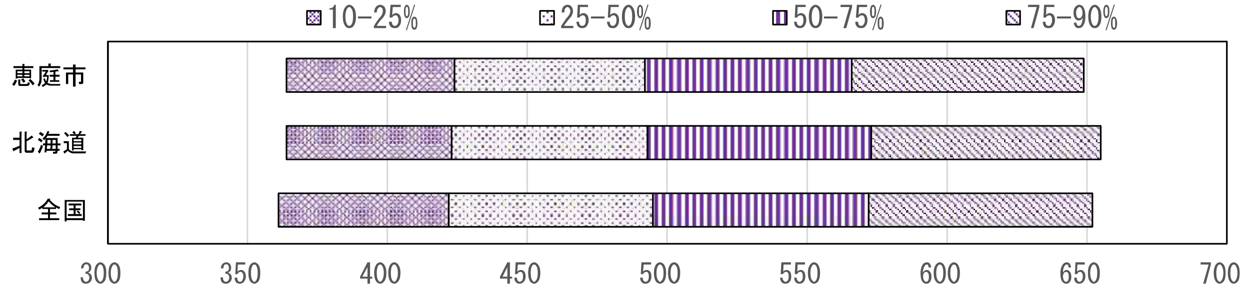
＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。中学校算数では、15 問中７問で全国平均を下回りました。記述式の問題における無解答が多くなっています。

## （6）中学校理科

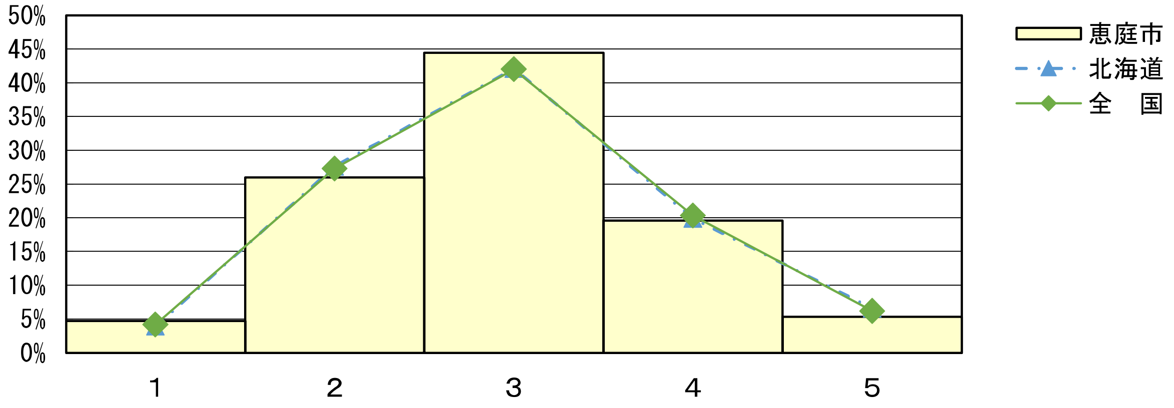
【IRT スコア・IRT バンド】

| 教科 | 恵庭市 | | 北海道（公立） | | 全国（公立） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 理科 | IRT スコア | IRT バンド | IRT スコア | IRT バンド | IRT スコア | IRT バンド |
| | 498 | 3 | 505 | 3 | 503 | 3 |

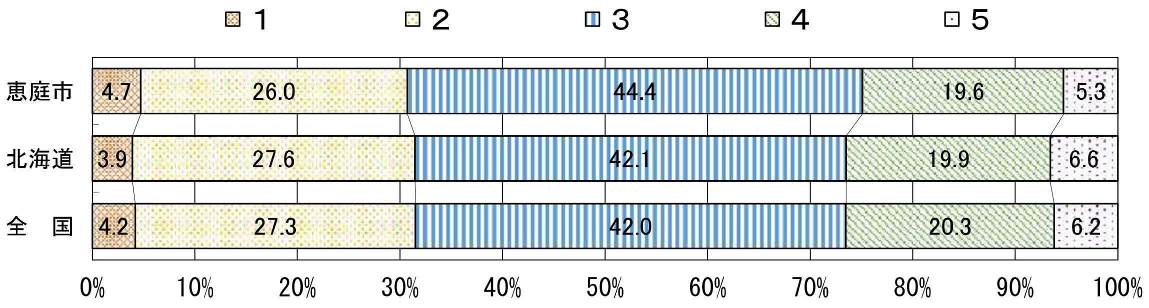
【IRT スコア分布の状況】




【IRT バンド分布の状況】




【IRT バンド分布の比較】




■ IRT スコアは、標準 500 より２ポイント下回りました。
■ IRT バンドの分布は、全国と比較して１の段階が 0.5%、３ の段階が 2.4%多く、５の段階は 0.9%少ない状況でした。

## 【学習指導要領の領域別、問題形式別の集計結果（公開問題）】　中学校理科

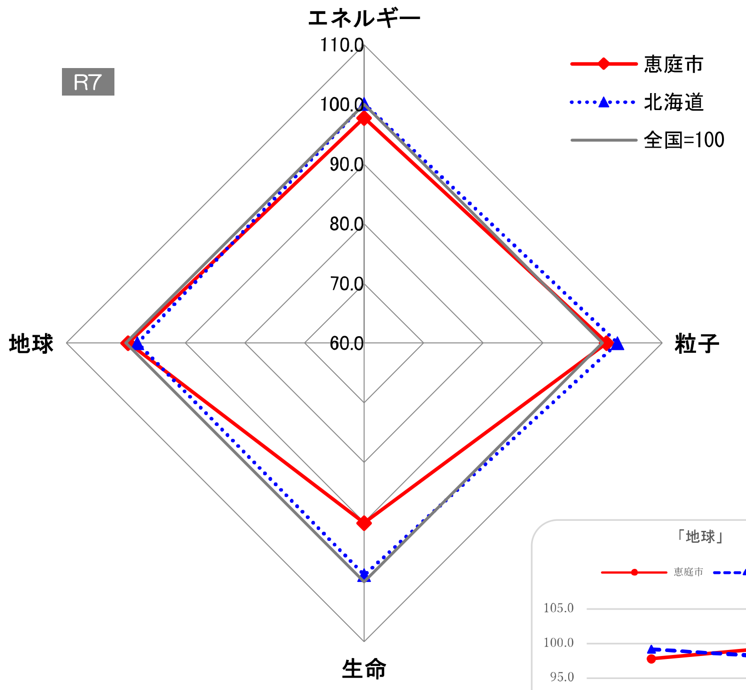
| 分類 | 区分 | 全22問 | 恵庭市平均正答率 | 全道平均正答率 | 全道と市内の比較 | R4全道比較 | 全国平均正答率 | 全国と市内の比較 | R4全道比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領の領域 | エネルギー | 5 | ● | 56.2 | ≒ | ≒ | 56.1 | ≒ | ≒ |
| | 粒子 | 8 | ○ | 63.3 | ≒ | ≒ | 61.7 | ≒ | ≒ |
| | 生命 | 5 | ・ | 44.3 | ◆ | ≒ | 44.8 | ◆ | ≒ |
| | 地球 | 5 | ・ | 36.5 | ≒ | ≒ | 37.3 | ≒ | ≒ |
| 問題形式 | 選択式 | 15 | ● | 56.8 | ≒ | ≒ | 56.9 | ◆ | ≒ |
| | 短答式 | 1 | ・ | 46.4 | ≒ | ≒ | 44.9 | ◇ | ≒ |
| | 記述式 | 6 | ・ | 39.9 | ≒ | ≒ | 39.3 | ≒ | ◆ |

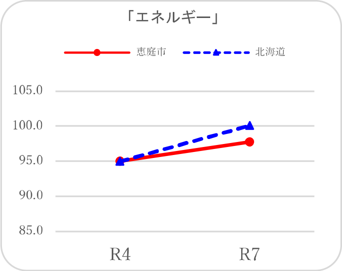
※公開問題のみを区分ごとに集計、比較　　全日程共通問題（６問）と実施日別の問題（４問×４日）

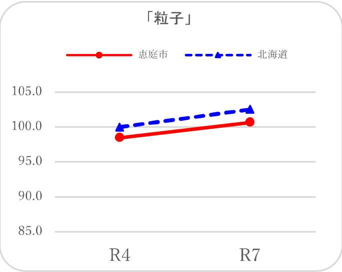
※「学習指導要領の区分・領域」については、１つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

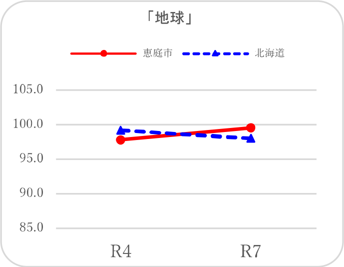
恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国､道との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

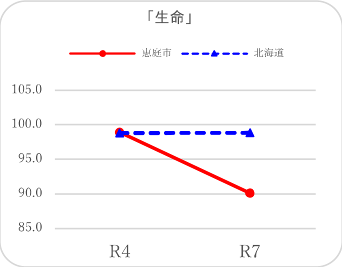
全国比「全国平均正答率を 100 としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ　＊公開問題




■「エネルギー」の正答率は、全道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「粒子」の正答率は、全道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「生命」の正答率は、全道、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「地球」の正答率は、全道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。

## 【問題別集計結果】　中学校理科

### 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全道平均正答率 | 全国との比較 | 全国平均正答率 | 全道との比較 | 難易度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 (1) | 加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する | 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る | 「粒子」を柱とする領域 | 選択 | ◎ | 94.1% | ◇ | 93.0% | ◇ | 1 |
| | | | 無解答率→ | | 0.0% | 0.1% | -0.1 | 0.1% | -0.1 | |
| 8 (1) | 大地の変化に関する言い伝えを１つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する | 地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる | 「地球」を柱とする領域 | 記述 | ● | 39.0% | △ | 42.2% | △ | 4 |
| | | | 無解答率→ | | 2.4% | 3.1% | -0.7 | 3.2% | -0.8 | |

### 平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域 | 形式 | 恵庭市正答率 | 全国平均正答率 | 全国との比較 | 全道平均正答率 | 全道との比較 | 難易度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 (4) | 生物１から生物４までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する | 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる | 「生命」を柱とする領域 | 選択 | • | 29.5% | ◆ | 29.7% | ◆ | 5 |
| | | | 無解答率→ | | 0.2% | 0.1% | 0.1 | 0.2% | 0.0 | |
| 3 (1) | 設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する | 仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる | 「エネルギー」を柱とした領域 | 選択 | • | 32.9% | ◆ | 34.9% | ◆ | 5 |
| | | | 無解答率→ | | 0.0% | 0.2% | -0.2 | 0.2% | -0.2 | |
| 5 (2) | 実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す | 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる | 「粒子」を柱とする領域 | 記述 | • | 35.0% | ◆ | 35.6% | ◆ | 4 |
| | | | 無解答率→ | | 3.9% | 4.6% | -0.7 | 4.6% | -0.7 | |
| 6 (1) | 牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する | スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる | 「生命」を柱とする領域 | 選択 | ● | 65.0% | ▼ | 65.9% | ▼ | 4 |
| | | | 無解答率→ | | 0.0% | 0.2% | -0.2 | 0.2% | -0.2 | |
| 6 (2) | 牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する | スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる | 「生命」を柱とする領域 | 選択 | • | 39.5% | ◆ | 41.9% | ◆ | 4 |
| | | | 無解答率→ | | 0.0% | 0.1% | -0.1 | 0.1% | -0.1 | |

### 上記問題以外で、無解答率が 10%以上になった問題　　無し

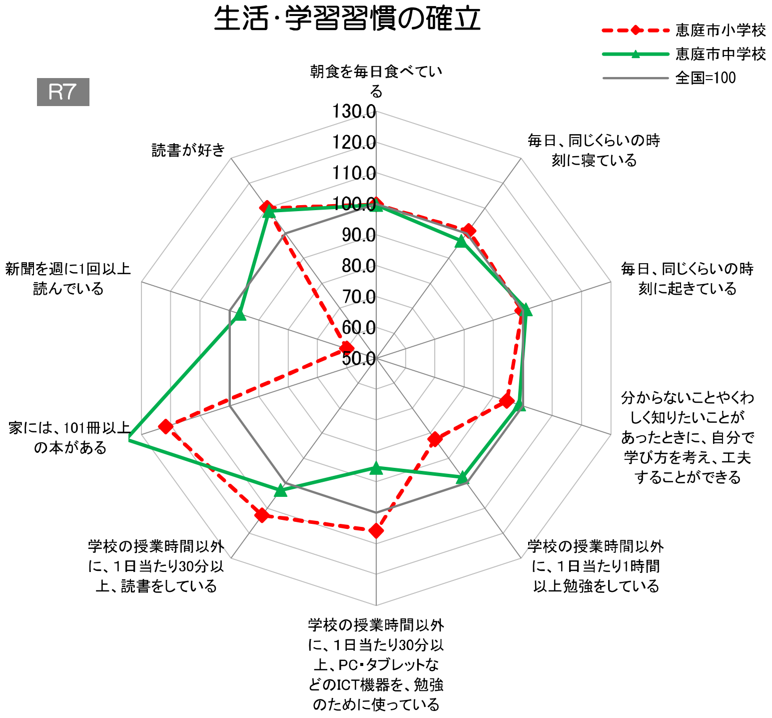
＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。CBT 調査による中学校理科では、公開問題における実施問題 18 問中 11 問で全国平均を下回り、５問が同じ割合という取組状況でした。

# 3. 質問調査〔生活習慣や学習習慣等に関する項目〕

## （1）児童生徒質問調査

### (1)生活、学習習慣の確立

| | 質問番号 | 質問事項 | 回答率に含まれる回答の範囲 | 学年 | 恵庭市の結果(%) R7 | 恵庭市の結果(%) R6 | 全道差 R7 | 全道差 R6 | 全国差 R7 | 全国差 R6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ① | 朝食を毎日食べていますか | 「している」「どちらかといえば、している」 | 小6 | 93.5% | 90.5% | +1.6 | -1.5 | -0.2 | -3.2 |
| | | | | 中3 | 90.9% | 92.1% | +1.6 | +2.8 | -0.3 | +0.9 |
| 2 | ② | 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか | 「している」「どちらかといえば、している」 | 小6 | 82.7% | 78.5% | +1.5 | -3.5 | +0.8 | -4.4 |
| | | | | 中3 | 78.6% | 81.0% | -0.5 | +1.7 | -2.4 | +0.3 |
| 3 | ③ | 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか | 「している」「どちらかといえば、している」 | 小6 | 90.8% | 89.6% | +0.6 | -1.4 | -0.2 | -2.0 |
| | | | | 中3 | 93.6% | 91.8% | +1.7 | -0.5 | +1.0 | -0.7 |
| 4 | ⑯ | 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか | 「できている」「どちらかといえば、できている」 | 小6 | 77.3% | 78.5% | -3.3 | -1.3 | -4.4 | -2.2 |
| | | | | 中3 | 76.5% | 76.8% | +0.7 | +0.6 | -1.0 | -1.8 |
| 5 | ⑰ | 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます） | 「３時間以上」「２時間以上、３時間より少ない」「１時間以上、２時間より少ない」 | 小6 | 44.5% | 47.8% | -3.4 | -4.6 | -9.5 | -6.8 |
| | | | | 中3 | 60.1% | 57.0% | +6.6 | ±0.0 | -1.5 | -7.3 |
| 6 | ⑱ | 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます） | 「３時間以上」「２時間以上、３時間より少ない」「１時間以上、２時間より少ない」「30 分以上、１時間より少ない」 | 小6 | 45.0% | | +1.0 | | +2.5 | |
| | | | | 中3 | 27.0% | | -4.7 | | -4.6 | |
| 7 | ㉑ | 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます） | 「２時間以上」「1 時間以上、２時間より少ない」「30 分以上、１ 時間より少ない」 | 小6 | 35.1% | | +5.9 | | +4.0 | |
| | | | | 中3 | 22.0% | | +0.6 | | +0.6 | |
| 8 | ㉒ | あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） | 「101～200 冊」「201～500 冊」「501 冊以上」 | 小6 | 37.6% | 38.6% | +5.0 | +4.7 | +6.7 | +6.7 |
| | | | | 中3 | 36.8% | 33.6% | +6.2 | +0.9 | +9.6 | +5.3 |
| 9 | ㉓ | 新聞を読んでいますか | 「ほぼ毎日読んでいる」「週に 1～3 回程度読んでいる」 | 小6 | 6.3% | 10.6% | -2.4 | +0.4 | -4.2 | -1.0 |
| | | | | 中3 | 5.5% | 6.7% | -0.8 | -0.6 | -0.2 | -0.6 |
| 10 | ㉔ | 読書は好きですか | 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」 | 小6 | 76.8% | | +7.4 | | +7.1 | |
| | | | | 中3 | 67.1% | | +3.1 | | +5.5 | |




●質問番号 17「家での勉強時間」

➢ 「３時間以上」「２時間以上、３時間より少ない」「１時間以上２時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和６年度と比べて、小学校で 3.3 ﾎﾟｲﾝﾄ低く、中学校で 3.1 ﾎﾟｲﾝﾄ高い。全国と比べて、小学校で 9.5 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 1.5 ﾎﾟｲﾝﾄ低い。

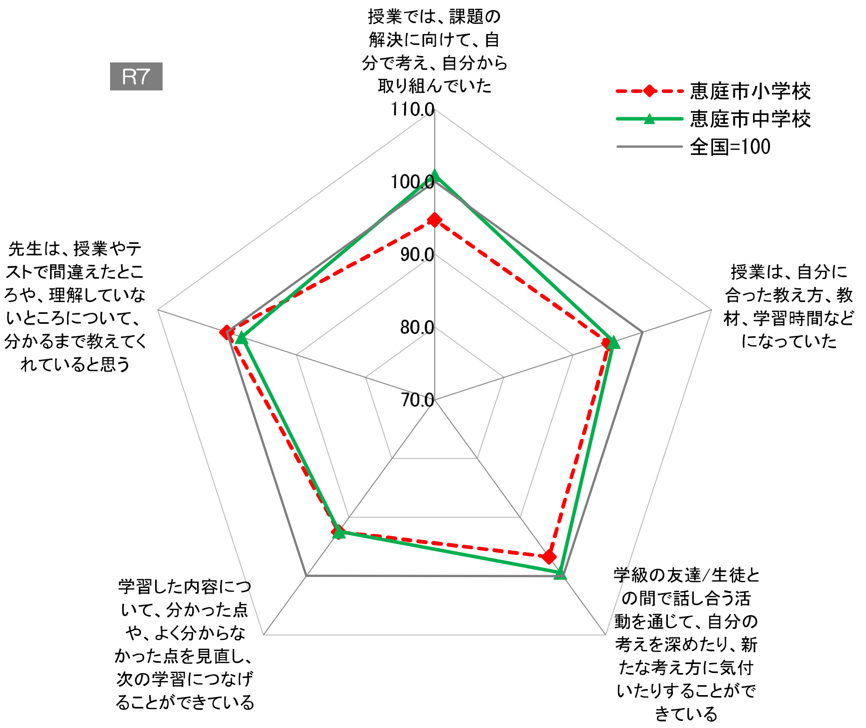
●質問番号 24「読書が好き」

➢ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で 7.1 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 5.5 ﾎﾟｲﾝﾄ高い。

## (2)授業改善

| | 質問番号 | 質問事項 | 回答率に含まれる回答の範囲 | 学年 | 恵庭市の結果(%) | | 全道差 | | 全国差 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | R7 | R6 | R7 | R6 | R7 | R6 |
| 1 | ㉜ | 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか | 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」 | 小6 | 76.1% | 81.0% | -4.3 | -0.4 | -4.2 | -0.9 |
| | | | | 中3 | 78.4% | 80.5% | +0.9 | +1.8 | +0.7 | +0.2 |
| 2 | ㉞ | 授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか | 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」 | 小6 | 79.4% | 84.6% | -4.4 | +0.5 | -4.0 | +0.3 |
| | | | | 中3 | 76.0% | 80.8% | -2.6 | +1.6 | -3.3 | -0.1 |
| 3 | ㉟ | 学級の友達/生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」 | 小6 | 82.1% | 86.5% | -4.1 | -0.2 | -2.8 | +0.2 |
| | | | | 中3 | 84.2% | 86.8% | -1.1 | +0.6 | -0.5 | +0.7 |
| 4 | ㊱ | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」 | 小6 | 73.4% | 75.9% | -4.8 | -3.6 | -6.0 | -4.9 |
| | | | | 中3 | 67.8% | 76.1% | -3.5 | +1.4 | -5.6 | -1.8 |
| 5 | ㊳ | 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか | 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」 | 小6 | 87.4% | 87.2% | -0.1 | +0.5 | ±0.0 | -0.7 |
| | | | | 中3 | 82.0% | 86.0% | -1.6 | +1.3 | -1.8 | +1.1 |
| 6 | ㉘ | 5年生までに/1.2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか | 「ほぼ毎日(複数授業)」「ほぼ毎日(1回くらい)」「週3回以上」 | 小6 | 76.1% | 65.6% | -3.2 | -2.5 | +4.4 | +6.1 |
| | | | | 中3 | 85.3% | 80.5% | +2.2 | +12.2 | +8.8 | +16.1 |
| 7 | ㉙(1) | ICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 82.7% | | -2.0 | | +0.9 | |
| | | | | 中3 | 88.2% | | +1.9 | | +4.6 | |
| 8 | ㉙(2) | インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 89.4% | | -1.7 | | -0.4 | |
| | | | | 中3 | 93.0% | | +0.7 | | +1.5 | |
| 9 | ㉙(3) | ICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 66.4% | | -4.5 | | -2.9 | |
| | | | | 中3 | 67.1% | | +2.7 | | +3.8 | |
| 10 | ㉙(4) | ICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 85.1% | | +3.4 | | +8.4 | |
| | | | | 中3 | 85.7% | | +4.2 | | +9.1 | |

### 主体的・対話的で深い学びの実現




● 質問番号35「話し合う活動で考えを深める、広げる」

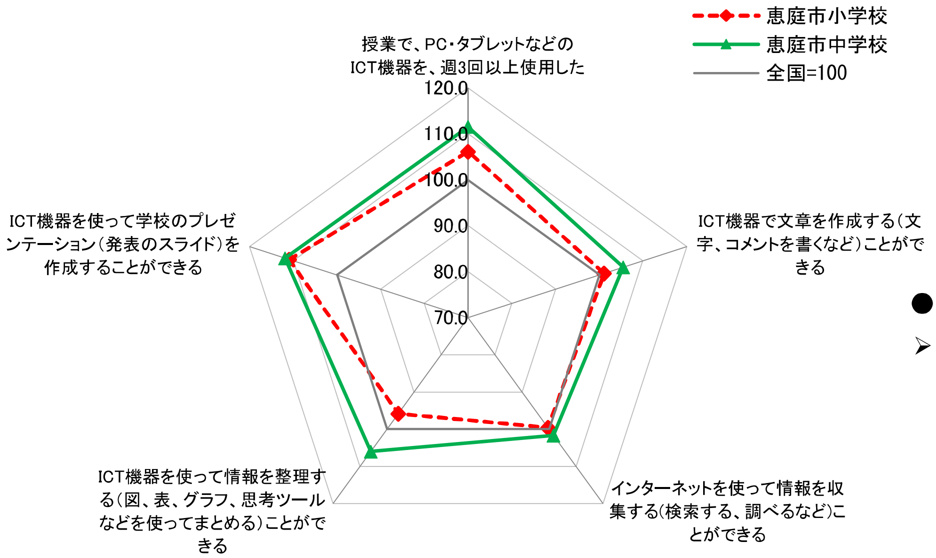
➢ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で4.4ポイ、中学校で2.6ポイ低い。全国と比べて、小学校で2.8ポイ、中学校で0.5ポイ低い。

● 質問番号36「分かった点や分からなかった点を見直し、次につなげる」

➢ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で2.5ポイ、中学校で8.3ポイ低い。全国と比べて、小学校で6.0ポイ、中学校で5.6ポイ低い。

## ICT活用力

R7




●質問番号 28「ICT 使用頻度」

➢ 「ほぼ毎日（複数授業）」「ほぼ毎日（１回くらい）」「週３回以上」と回答している児童生徒の割合は、令和６年度と比べて、小学校で 10.5 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 4.8 ﾎﾟｲﾝﾄ高い。全国と比べて、小学校で 4.4 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 8.8 ﾎﾟｲﾝﾄ高い。

●質問番号 29(4)「プレゼンテーションを作成」

➢ 「とてもそう思う」「そう思う」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で 8.4 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 9.1 ﾎﾟｲﾝﾄ高い。

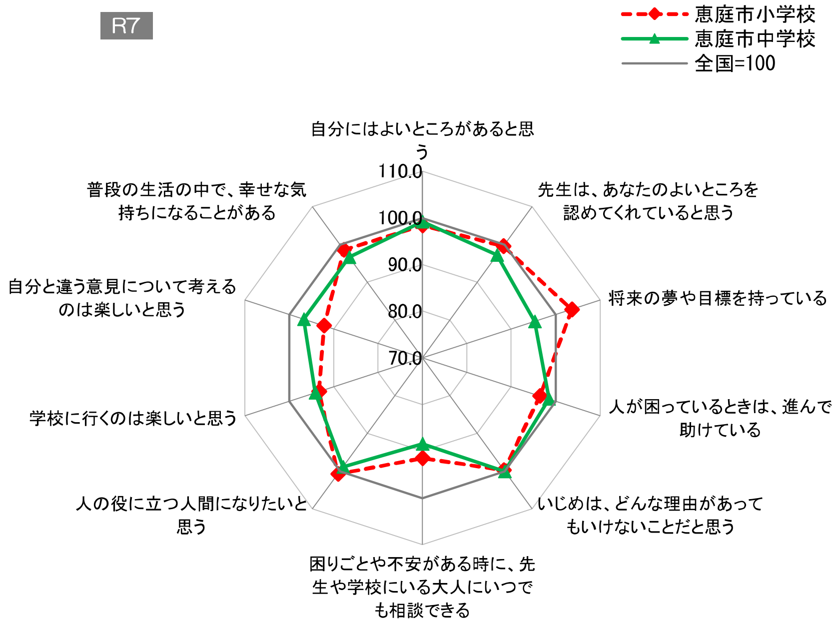
〈その他、ICT 機器の活用に関する質問〉

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ㉚(1) | ICT 機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 77.9% | 83.0% | -4.7 | -3.4 | -3.4 | -2.5 |
| | | | | 中3 | | 81.3% | | +1.6 | | +1.1 |
| 2 | ㉚(2) | ICT 機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができますか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 87.1% | 92.1% | -3.8 | -1.4 | -2.1 | 0.0 |
| | | | | 中3 | | 94.0% | | -0.7 | | +0.1 |
| 3 | ㉚(3) | ICT 機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができましたか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 82.1% | 83.8% | -3.9 | -2.3 | -3.4 | -2.2 |
| | | | | 中3 | | 83.6% | | +2.0 | | +1.2 |
| 4 | ㉚(5) | ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 72.7% | 75.0% | -5.3 | -3.7 | -4.9 | -4.2 |
| | | | | 中3 | | 74.6% | | -0.1 | | -3.1 |
| 5 | ㉚(6) | ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなりますか | 「とてもそう思う」「そう思う」 | 小6 | 80.9% | 83.8% | -5.1 | -3.2 | -3.7 | -2.3 |
| | | | | 中3 | | 87.0% | | +2.2 | | +0.8 |

## ⑶ウェルビーイングの向上（挑戦心・自己有用感・幸福感等）

| | 質問番号 | 質問事項 | 回答率に含まれる回答の範囲 | 学年 | 恵庭市の結果(%) R7 | 恵庭市の結果(%) R6 | 全道差 R7 | 全道差 R6 | 全国差 R7 | 全国差 R6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑤ | 自分にはよいところがあると思いますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 85.5% | 82.7% | +0.1 | +0.3 | -0.4 | -1.4 |
| | | | | 中3 | 85.5% | 83.0% | -0.1 | ±0.0 | -0.7 | -0.3 |
| 2 | ⑥ | 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 91.8% | 87.4% | -0.5 | -1.4 | -0.4 | -2.5 |
| | | | | 中3 | 89.6% | 91.9% | -2.6 | +1.5 | -2.6 | +1.5 |
| 3 | ⑦ | 将来の夢や目標を持っていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 86.1% | 81.5% | +3.6 | -0.1 | +3.0 | -0.9 |
| | | | | 中3 | 64.3% | 64.3% | -2.1 | -1.1 | -3.2 | -2.0 |
| 4 | ⑧ | 人が困っているときは、進んで助けていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 90.4% | 89.7% | -3.3 | -2.9 | -3.3 | -3.0 |
| | | | | 中3 | 89.5% | 86.0% | -0.9 | -3.2 | -1.4 | -4.1 |
| 5 | ⑨ | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 96.9% | 97.1% | -0.7 | -0.2 | -0.3 | +0.4 |
| | | | | 中3 | 95.9% | 97.2% | -0.3 | +1.3 | ±0.0 | +1.5 |
| 6 | ⑩ | 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 64.6% | 59.0% | -3.9 | -5.3 | -6.0 | -8.1 |
| | | | | 中3 | 64.7% | 59.5% | -5.8 | -4.7 | -8.5 | -8.0 |
| 7 | ⑪ | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 97.1% | 96.8% | +0.8 | +0.8 | +0.7 | +0.9 |
| | | | | 中3 | 95.5% | 94.2% | -0.9 | -0.7 | -1.1 | -1.0 |
| 8 | ⑫ | 学校に行くのは楽しいと思いますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 80.7% | 79.9% | -2.9 | -1.9 | -5.8 | -4.9 |
| | | | | 中3 | 81.0% | 76.4% | -2.0 | -4.8 | -5.1 | -7.4 |
| 9 | ⑬ | 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 72.0% | 72.0% | -4.5 | -2.4 | -6.1 | -3.8 |
| | | | | 中3 | 76.6% | 74.7% | -0.3 | +0.7 | -2.6 | -1.5 |
| 10 | ⑮ | 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか | 「よくある」「ときどきある」 | 小6 | 91.7% | 90.7% | -0.8 | -0.2 | -1.3 | -1.0 |
| | | | | 中3 | 88.5% | 88.6% | -2.2 | -0.7 | -3.1 | -1.2 |

挑戦心・自己有用感・幸福感等




●質問番号 5「自分にはよいところがある」

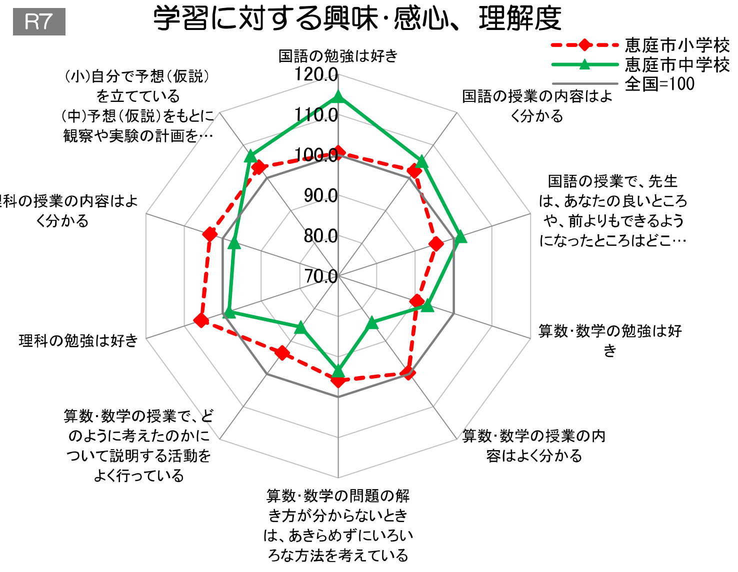
➢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和６年度と比べて、小学校で 2.8 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 2.5 ﾎﾟｲﾝﾄ高い。全国と比べて、小学校で 0.4 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 0.7 ﾎﾟｲﾝﾄ低い。

●質問番号 10「困りごとや不安があるときに相談できる」

➢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和６年度と比べて、小学校で 5.6 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 5.2 ﾎﾟｲﾝﾄ高い。全国と比べて、小学校で 6.0 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 8.5 ﾎﾟｲﾝﾄ低い。

## (4)ウェルビーイングの向上（教科について）

| | 質問番号 | 質問事項 | 回答率に含まれる回答の範囲 | 学年 | 恵庭市の結果(%) R7 | 恵庭市の結果(%) R6 | 全道差 R7 | 全道差 R6 | 全国差 R7 | 全国差 R6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ㊺ | 国語の勉強は好きですか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 58.6% | 57.6% | -1.4 | -4.3 | +0.3 | -4.4 |
| | | | | 中3 | 66.3% | 67.9% | +4.5 | +0.4 | +8.4 | +3.6 |
| 2 | ㊻ | 国語の授業の内容はよく分かりますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 84.6% | 85.7% | -0.9 | -0.1 | +1.8 | -0.6 |
| | | | | 中3 | 81.0% | 88.1% | +0.3 | +3.1 | +4.0 | +5.4 |
| 3 | ㊽ | 国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 74.7% | | -4.8 | | -3.5 | |
| | | | | 中3 | 74.2% | | +0.6 | | +1.3 | |
| 4 | ㊽ | 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 76.6% | | -5.6 | | -5.2 | |
| | 51 | 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 中3 | 71.6% | | -2.8 | | -2.0 | |
| 5 | 53 | 算数・数学の勉強は好きですか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 52.4% | 55.5% | -2.7 | -2.1 | -5.5 | -5.5 |
| | | | | 中3 | 50.2% | 46.2% | -1.6 | -6.0 | -3.6 | -11.0 |
| 6 | 54 | 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 78.0% | 81.0% | +2.6 | +2.7 | -0.3 | -1.1 |
| | | | | 中3 | 59.2% | 72.1% | -8.5 | -0.9 | -11.1 | -3.6 |
| 7 | 57 | 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 78.9% | 82.3% | -1.6 | +0.6 | -3.4 | -1.0 |
| | | | | 中3 | 71.2% | 73.6% | -3.6 | -1.9 | -5.0 | -4.5 |
| 8 | 58 | 算数・数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 61.3% | | -4.0 | | -4.2 | |
| | | | | 中3 | 50.2% | | -6.7 | | -8.4 | |
| 9 | 61 | 理科の勉強は好きですか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 84.6% | 88.4% | +1.4 | +2.7 | +4.5 | +4.8 |
| | | | | 中3 | 62.8% | 67.7% | -0.2 | +3.2 | -1.0 | -0.6 |
| 10 | 62 | 理科の授業の内容はよくわかりますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 91.9% | | +0.6 | | +3.0 | |
| | | | | 中3 | 69.3% | | -1.4 | | -2.1 | |
| 11 | 66 | 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 62.9% | 85.6% | -5.8 | +2.4 | -6.0 | +2.4 |
| | 67 | | | 中3 | 49.6% | 73.2% | -5.4 | +5.5 | -6.6 | +2.5 |
| 12 | 68 | 理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想（仮説）を立てていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | 88.5% | | +1.6 | | +2.8 | |
| | 69 | 理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか | 「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」 | 小6 | － | 89.4% | － | +2.9 | － | +3.8 |
| | | | | 中3 | 75.0% | 76.8% | +1.8 | +5.9 | +4.8 | +5.3 |




●質問番号 54「算数・数学の授業がよくわかる」

➢ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和６年度と比べて、小学校で 3.0 ㌽、中学校で 12.9 ㌽低い。全国と比べて、小学校で 0.3 ㌽、中学校で 11.1 ㌽低い。

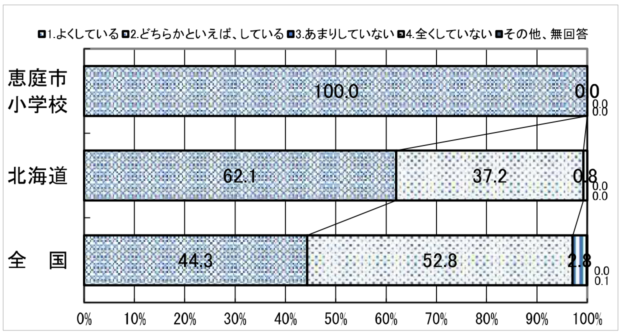
●質問番号 57「算数・数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」

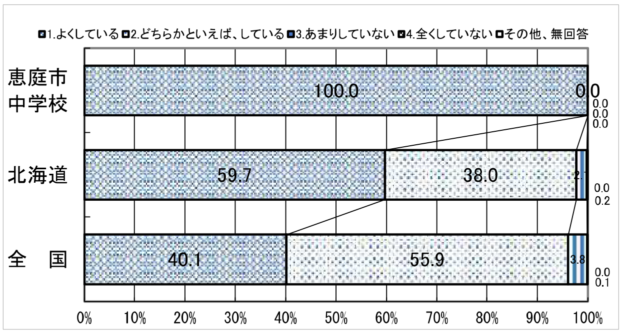
➢ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で 4.2 ㌽、中学校で 8.4 ㌽低い。

## （2） 学校質問調査

### 【検証改善サイクルの確立】

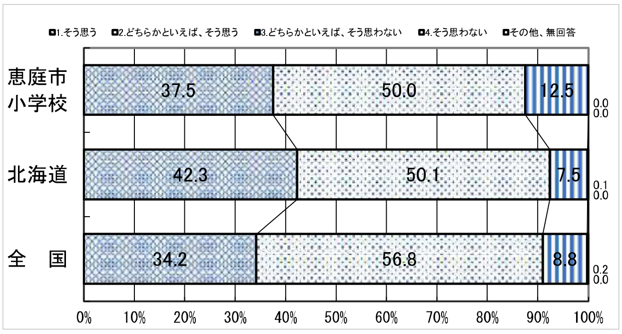
① 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立していますか　（質問番号 15）

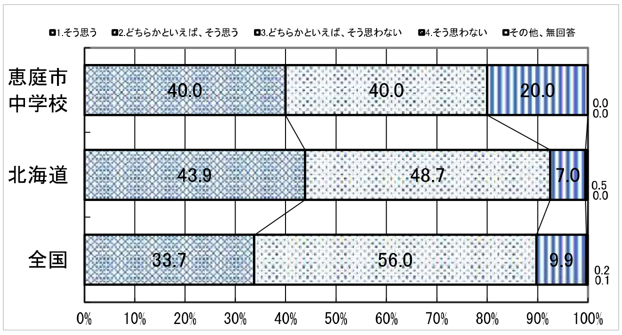



■ 「よくしている」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 55.7 ポイント高く、中学校で 59.9 ポイント高い。

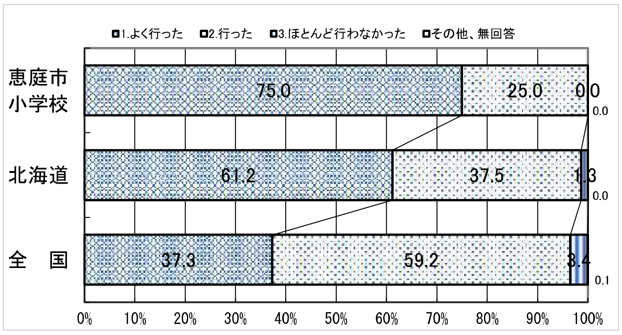
② 今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか　（質問番号 22）

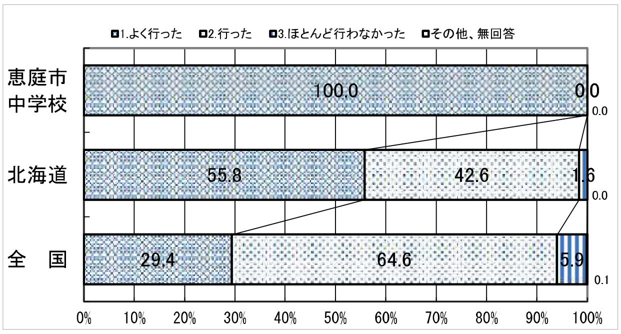



■ 「そう思う」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 3.3 ポイント高く、中学校で 6.3 ポイント高い。

③ 前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか　（質問番号 83）

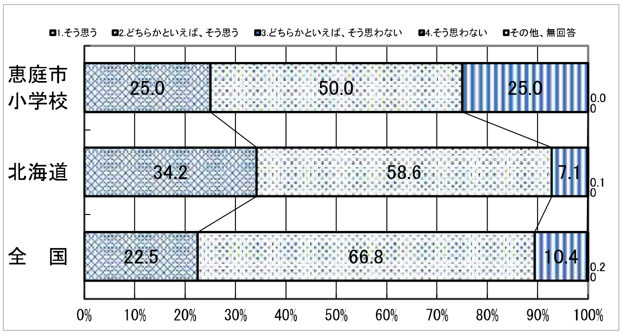


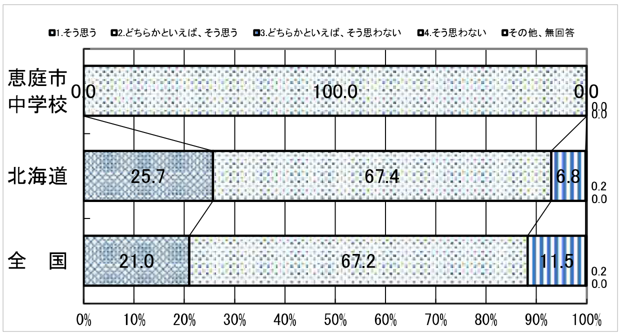




■ 「よくしている」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 37.7 ポイント高く、中学校で 70.6 ポイント高い。

## 【主体的･対話的で深い学びの実現】

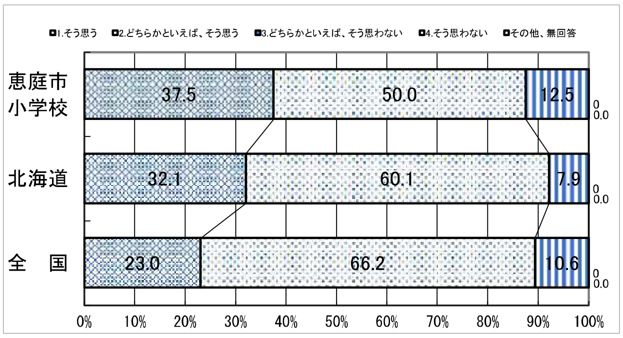
④ 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか　（質問番号 25）

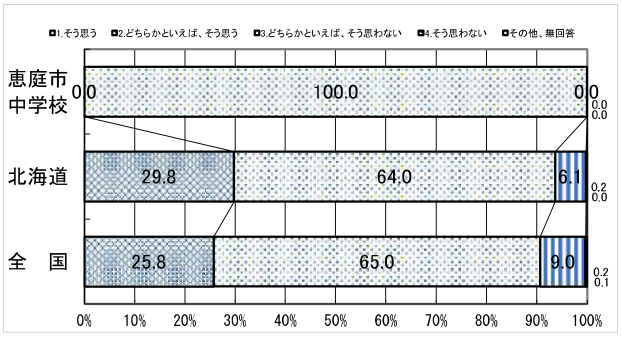



■ 「そう思う」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 2.5 ポイント高く、中学校で 21.0 ポイント低い。

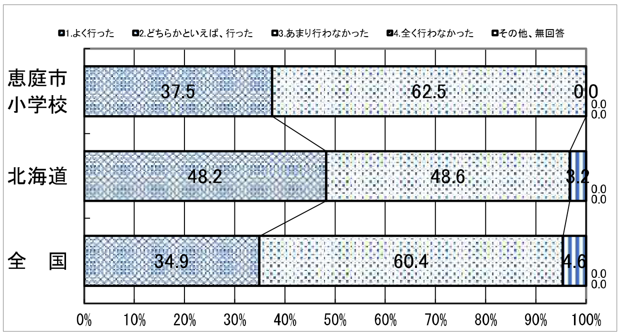
⑤ 児童生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか　（質問番号 27）

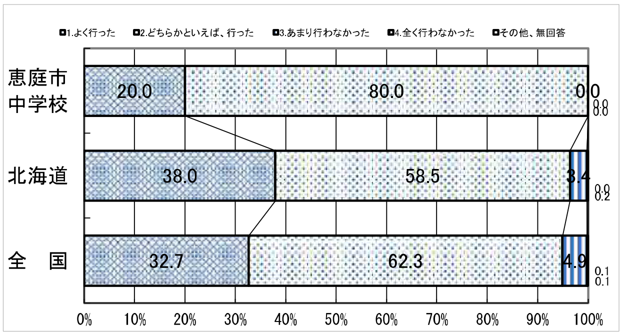



■ 「そう思う」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 14.5 ポイント高く、中学校で 25.8 ポイント低い。

⑥ 前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか　（質問番号 31）



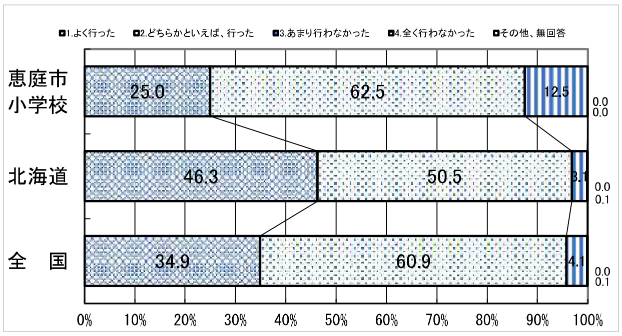



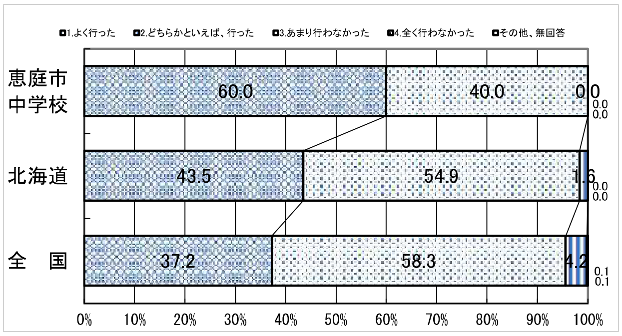

■ 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 2.6 ポイント高く、中学校で 12.7 ポイント低い。

## 【各教科の指導---国語、算数·数学、理科】

⑦ 国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか　（質問番号 43）

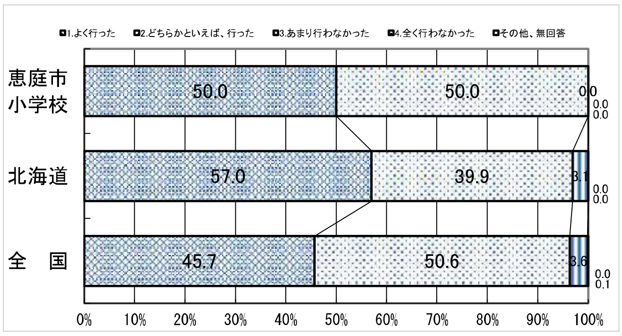
⑦ 国語の授業において、前年度までに、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行いましたか　（質問番号 44）

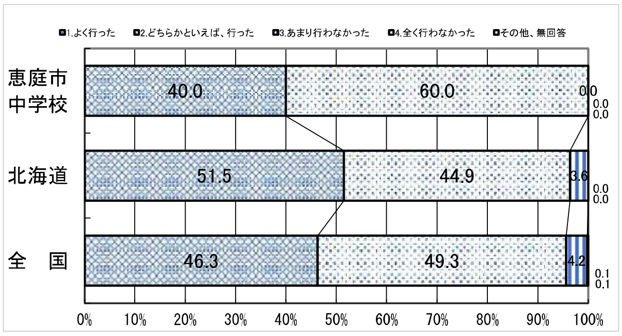



■ 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 9.9 ポイント低く、中学校で 22.8 ポイント高い。

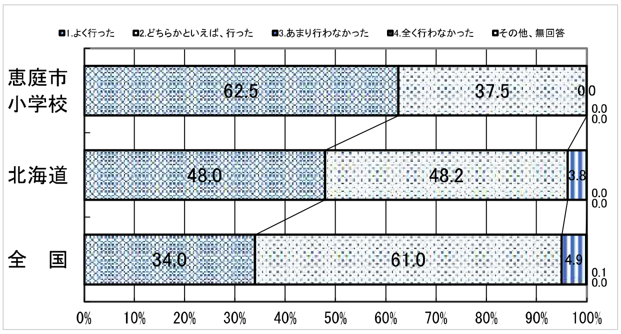
⑧ 算数/数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか　（質問番号 47）

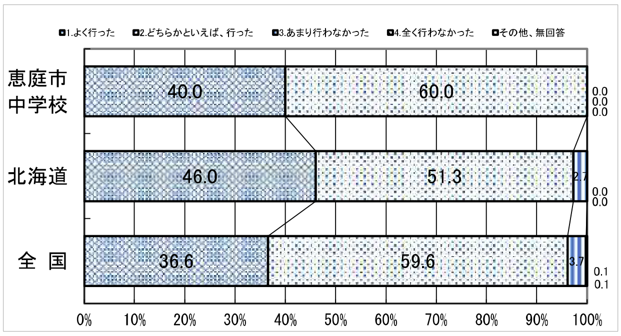



■ 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 4.3 ポイント高く、中学校で 6.3 ポイント低い。

⑨ 理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか　（質問番号 49）

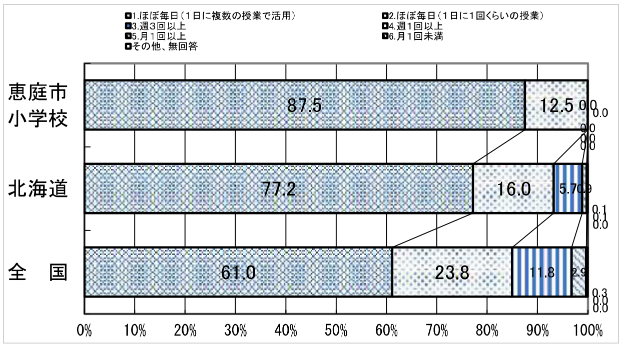


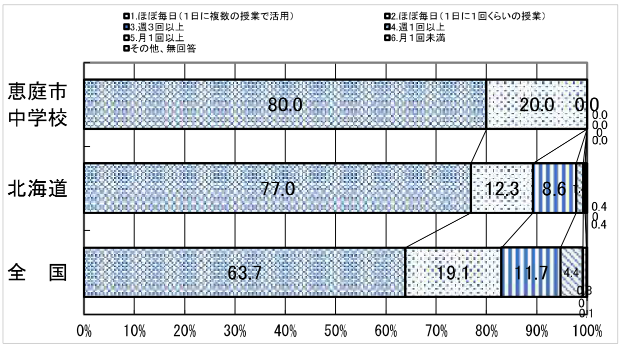




■ 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 28.5 ポイント高く、中学校で 3.4 ポイント高い。

## 【ICT 機器の効果的な活用】

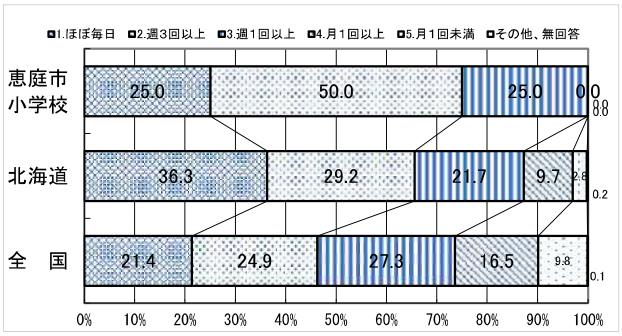
⑩ 前年度までに、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか　（質問番号 58）

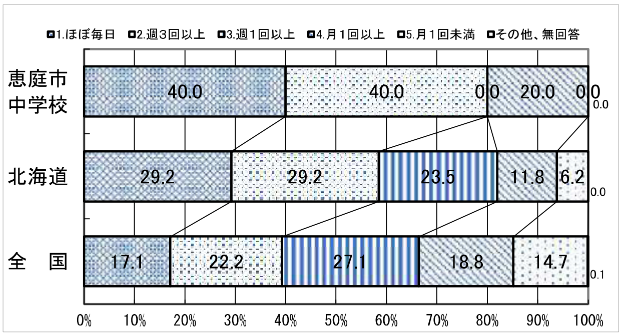



■ 「ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 26.5 ポイント高く、中学校で 16.3 ポイント高い。

⑪ 児童生徒同士がやりとりする場面では、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか　（質問番号 62）

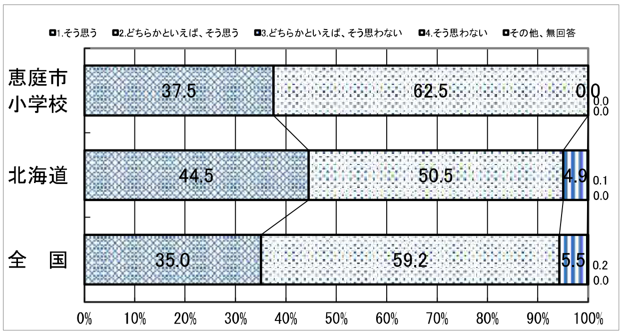


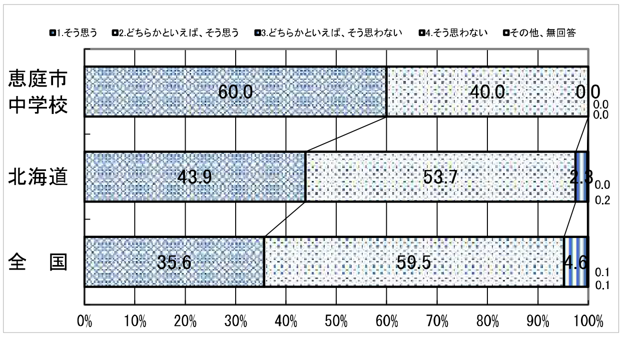




■ 「ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 3.6 ポイント高く、中学校で 16.3 ポイント高い。

## 【心理的安全性の高い学級づくり】

⑫ 児童生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか　（質問番号 28）

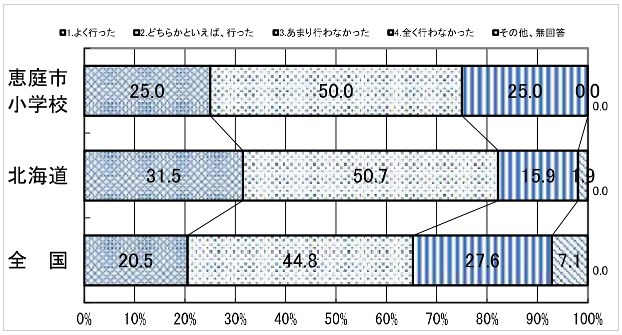


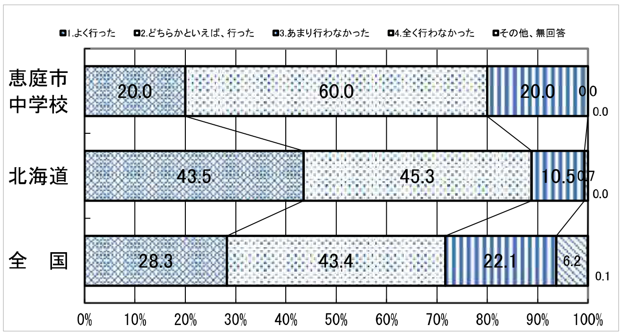




■ 「そう思う」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 2.5 ポイント高く、中学校で 24.4 ポイント高い。

## 【小中連携・小中一貫教育の推進】

⑬ 前年度までに、近隣等の小学校/中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか　（質問番号 72）

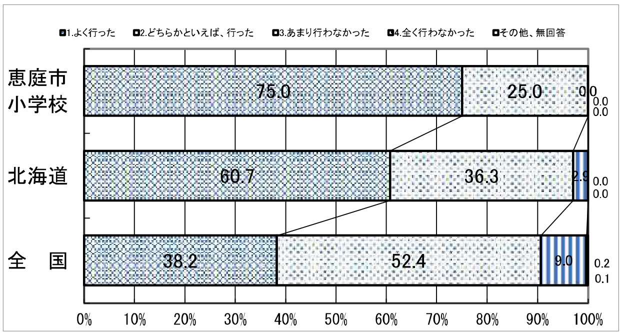


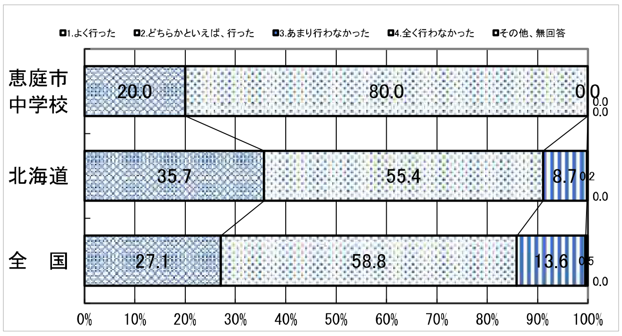




■ 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 4.5 ポイント高く、中学校で 8.3 ポイント低い。

## 【学習習慣の確立】

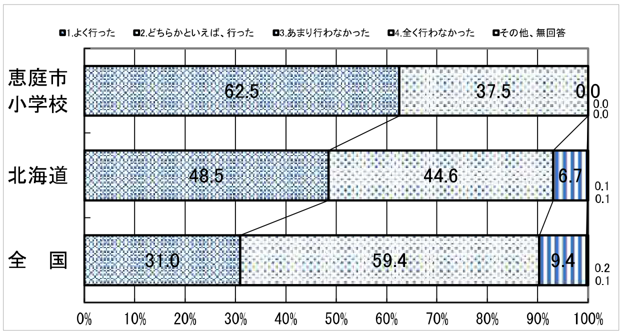
⑭ 前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか　（質問番号 81）

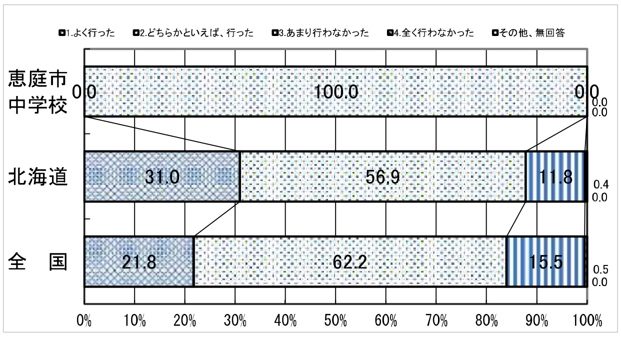



■ 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 36.8 ポイント高く、中学校で 7.1 ポイント低い。

⑮ 前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか　（質問番号 82）




■ 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で 31.5 ポイント高く、中学校で 21.8 ポイント低い。

## 総　評

1. 学力について

(1) 小学校「教科に関する調査」から

国語は、全道、全国と比較して「ほぼ同程度」の結果となりました。算数は、全道と比較して「ほぼ同程度」、全国と比較して「やや下回る」結果となりました。「測定」「図形」領域の正答率が低く、全国を下回っており、課題となります。理科は、全道、全国と比較して「ほぼ同程度」の結果となりました。

(2) 中学校「教科に関する調査」から

国語は、全道、全国と比較して「やや下回る」結果となりました。「書くこと」の正答率が低く、課題となります。数学は、全道、全国と比較して「やや下回る」結果となりました。「数と式」領域の正答率が低く、また、「データの活用」領域は全国と比較して「下回る」結果であり、課題となります。理科の IRT スコアは標準の 500 に近い段階でした。

2. 授業改善の取組について

恵庭市では主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、対話を重視した授業改善に取り組んできました。関連する児童生徒質問 35「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対し、肯定的な回答は小中ともに 80%を越えていますが、全道、全国と比較すると低く、「考えを深めたり、広げたりすることができた」という子どもの実感は今一歩ということが分かります。

同様の学校質問 31「児童生徒がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか」の回答結果からも、まだまだ工夫できると学校は自己評価しています。

主体的・対話的で深い学びを実現させるために ICT 機器の活用にも取り組んでいます。児童生徒質問 28「ICT 機器をどの程度使用しましたか」で、「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と回答した児童生徒の割合は前回調査よりも増え、全国を上回っています。ICT 機器で文章を作成する、プレゼンを作成するといった技能についても全国を上回る回答率です。

学校質問 58 からも各学校で日常的に活用されていることが分かりますが、学校質問 62「やりとりする場面で、ICT 機器をどの程度使用させていますか」の結果を見ると、使用頻度は下がっています。「わかりやすく伝える」「考えを共有し比べる」と ICT をより効果的に活用させ、質の高い対話で価値交換を実現する授業づくりを進めていく必要があります。

児童生徒質問「算数の授業の内容はよく分かりますか」で肯定的な回答をした児童生徒の割合は、前回よりも低くなり、中学校は全国平均と 11 ポイントの差となりました。クロス集計では「算数の授業が分かると答えた児童生徒ほど、算数はもちろん、国語、理科の正答率も高くなる」という相関性が明らかになっています。

児童生徒質問 36「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、小中ともに全国を下回る結果となりました。

授業の振り返りの場面で、「こういうふうにやったらできるようになった」「ここがまだよくわからない」と自分の行為や変容を自覚させることが大切です。その手ごたえ、わからなさの自覚が「よし、またやってみよう」を生み出し、その積み重ねが自律した学びにつながります。

学んだことを言語化する丁寧な振り返りを行う。そのために学習課題を自分事とし、まずは自分で考えて取り組み、友達と対話して考えを深めていくという学び方を身に付けさせる。単位時間だけでなく、単元計画、年間指導計画を学校全体で構築していくことが大切です。

また、振り返りとも関連しますが、児童生徒質問 17「普段、１日当たり、どれくらいの時間勉強しますか」で、「１時間以上」「２時間以上」「３時間以上」と答えた児童生徒の割合は、中学校で前回より増えて全国とほぼ同程度、小学校は前回より減り、全国を下回っています。授業と連動した課題、一人一人の学習状況に応じた課題（AI ドリルの活用）など、児童生徒が自ら学習に取り組む手立てを学校全体で検討し、家庭と連携した取組を進めていくことが大切です。